むすび場
地域文化スポーツクラブ事業
活動報告書

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所

Contents

1. はじめに …… 1

2. 講座紹介

2.1 理科 …… 5

2.2 たいけん …… 15

2.3 つくる …… 29

2.4 コラボ …… 37

2.5 その他 …… 45

3. まとめ …… 51

4. 巻末資料 …… 57

はじめに

学校でのクラブ・部活動は、少子化の進行や指導者の不足から停滞傾向にあります。勝利至上主義や強制加入など見直さなければいけない点もある上に、おもに指導に当たっている先生方の働き方改革はまさに「待ったなし」といった状態です。

しかし、だからといって安易に活動を縮小や廃止などすれば、子どもたちから貴重な学びの機会を奪うことにもなりかねません。改善すべき点がある一方で、これまでクラブ・部活動が果たしてきた役割は決して小さくないはずです。企業による教室にその多くを頼るようになれば、家庭や地域間での子育ち環境の格差を、さらに広げてしまうことにもなりえます。

一方で、ここ数年不登校が急増し、家庭と学校以外の「サード・プレイス（第3の場）」のニーズが高くなっています。学校に行かないでいる子には、体験的な学びの機会が不足しがちです。不登校の背後にはLD（Learning Difference：学び方の違い/ Learning Disabilities：学習障害）や軽度発達障害が隠れていることも少なくありませんが、特異な才能と不器用さをあわせ持つなどするLDやその傾向にある子らにとって大切なのは、興味や関心にそった広い意味での学びの機会を充実させることではないでしょうか。

むしろ今こそ、既存の枠を超えた学びの機会の充実と、地域ぐるみで多様な学びを支える仕組み作りに取り組むべきではないでしょうか。そこで私たちは、軽スポーツや理科、工作、農業など、一人ひとりの興味や関心に寄り添った「もう1つの学びの場」としての「地域文化スポーツクラブ事業」に取り組むこととしました。

事業の背景

1　急増する「不登校」や「隠れ不登校」

本事業の主対象として考えていたのは、いわゆる「不登校」や「隠れ不登校」などと言われる状態にある小中高校生です。2001年度の13.8万人を1つのピークとして微減傾向にあった全国の不登校児童生徒数は、2012年度を境に増加に転じ、特に近年は急増しています。2021年度に「病気や経済的理由を除き、何らかの要因や背景によって、学校に行かないか行けない状況」で「年間30日以上欠席」した小中学生数は全国で24.5万人、2012年と比較して小学生は3.8倍、中学生では1.8倍に達しています。

「令和３年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）より

これらの数値は、文部科学省が学校、教育委員会からの回答をもとに毎年発表しているデータによるものですが、日本財団が2018年に行った調査では、文部科学省の定義による不登校数は中学生だけでも約10万人、他に「保健室登校」や「部分登校」などいわゆる「隠れ不登校」といわれる中学生は約

33万人。これを合わせると計43万人、およそ10人に1人が不登校傾向にあると報告されています。その後の増加率から推測すると、2022年度には小中学生を合わせて100万人近くの児童生徒が「学校に行かないか行けない」または「学校に行きたくない」という状況にあるとも考えられます。

2　不登校の要因

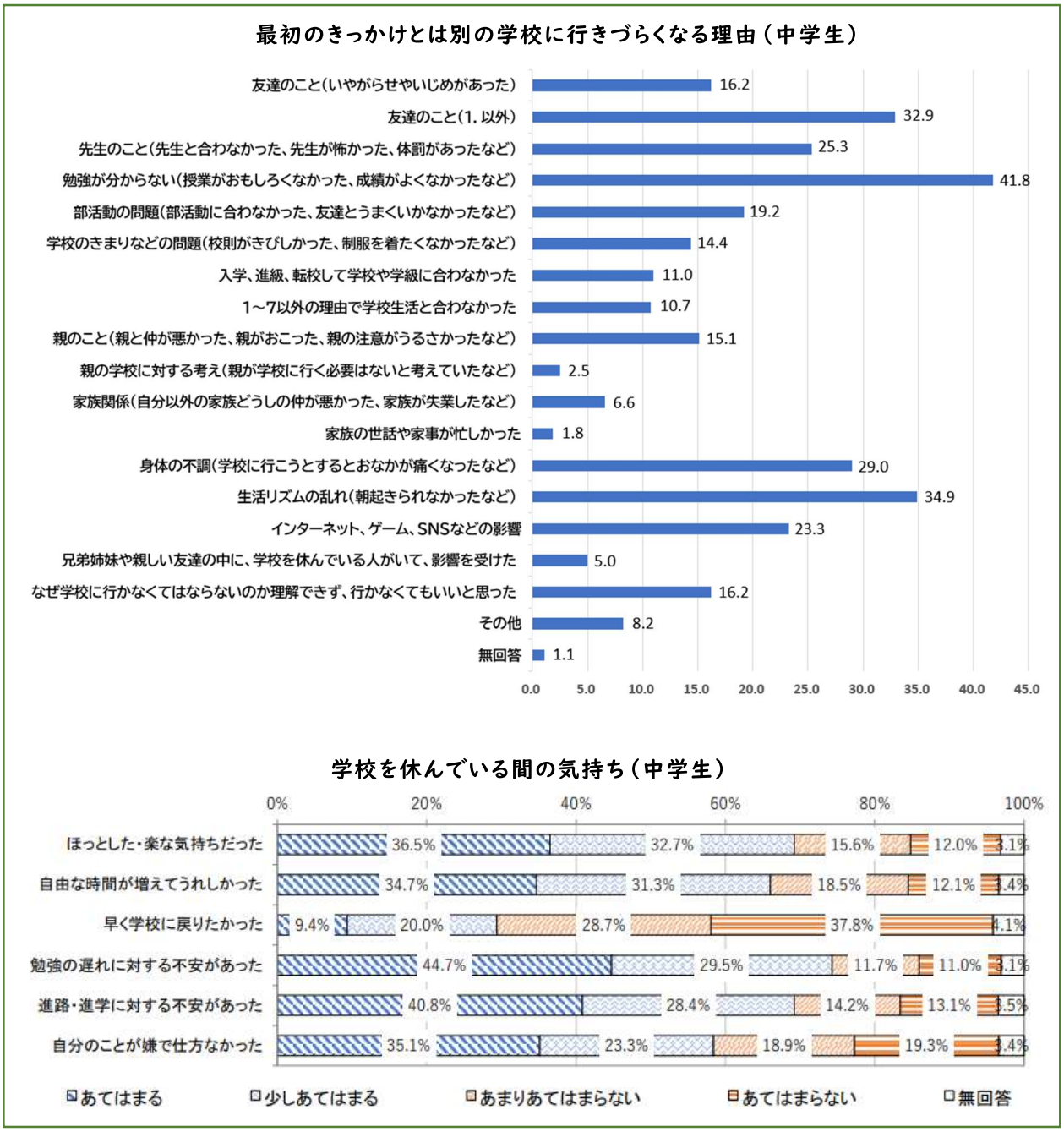
不登校の要因として以前からあげられているのが本人の「無気力」や「不安」ですが、これらは「要因」ではなく「結果」と捉えて然るべきです。不登校急増の理由を2016年の「教育機会確保法」の成立に求める向きもありますが、文部科学省による調査の結果では、2021年度にフリースクール等に通うなどして「出席扱い」となった小中学生はわずか2.8万人にとどまっています。最近ではコロナ禍も要因として取り沙汰されます。しかし24.5万人の中に、新型コロナウイルスの感染回避のための欠席者数5.9万人は含まれていません。反面、不登校と考えてもよいであろうケースでも、本人や保護者の意向などによって感染回避による欠席として報告しているという話も耳にするところです。

一方、不登校が増加傾向に転じた2012年と前年度比25%と急増した2021年には、中学校で「新学習指導要領」が完全実施されています。「詰め込み教育」の時代でも、中学卒業までに学ぶ英単語数は「900語程度」でした。それが「脱ゆとり教育」を標榜した2012年度の学習指導要領改訂では「1200語程度」に、さらに2021年度には「1600～1800語程度」、小学校に前倒しされた「600～700語」を加えると、中学卒業までに学ぶ語は「2200～2500語」にもなっています。もちろんこれだけがその理由だなどと言うつもりはありませんが、このような事実に目が向けられないでいることには疑問を感じます。

各回「学習指導要領より」加工

事実、2020年度に文部科学省が行った「不登校児童生徒の実態調査」を見ると、最初のきっかけとは別の「学校に行きづらくなる理由」としてもっとも多いのは、小中学生ともに「勉強がわからない」で、小学生は31.4%、中学生は41.8%となっています。同じく、「学校を休んでいる間の気持ち」について聞いた結果を見ると、およそ7割の小中学生が「ほっとした・楽な気持ちだった」と回答していながら、「勉強の遅れに対する不安があった」とした小学生は63.8%、中学生は74.2%に達しています。

多くの子どもたちは、学校に行かずに安穏としているわけではありません。およそ3割からそれ以上の中学生が最初のきっかけとしてあげている「身体の不調」や「生活のリズムの乱れ」などにも、学習の遅れから来る不安やLD（Learning Differences：学び方の違い）への無理解に因るストレスが浅からず関わっているであろうことは想像に難くありません。小学校では「暴力行為」も急増しています。児童1,000人当たりの暴力行為発生件数は、脱ゆとり教育を目指した「学習指導要領」が完全実施された2011年には1.0件でした。それが2021年には7.7件と目を覆うばかりの状況です。



いずれも、文部科学省「令和２年度不登校児童生徒の実態調査」より加工

2014年に文部科学省が設けた「英語教育の在り方に関する有識者会議」は「アジアの中でトップクラスの英語力を目指すべき」だと提言しています。たしかに「英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要」かもしれません。しかし具体的な目標を定める際には、教室で子どもたちがどのような状態にあるのかなど、「子どもたちを見る」ということが疎かにされてはいなかったでしょうか。

リヴォルヴ学校教育研究所では2000年の設立以来、不登校といわれる状態にある子どもたちの学びの支援に取り組んできました。統計が示すように、授業の中でのストレスを主因としてあげる子はさほど多くはなかったように思います。しかし学習指導要領の改訂前に比べれば、「漢字が苦手で…」「英語が嫌で…」という子は確実に増えていると感じています。中でも、「わからない授業を、ついていけているよう

なふりをして受けている。毎日それを繰り返している。そのしんどさがわかりますか？」と言った中学生の言葉は、今でも胸に焼き付いています。不登校等の要因も、むしろ、子どもたちが「何に不安を感じているのか」「なぜ、気力を失っているのか」を理解し、その心に寄り添おうとする姿勢の欠如にこそあるとは考えられないでしょうか。

３　不登校は問題か？　問題は不登校か？

そもそも不登校は問題なのでしょうか？ 当たり前であるはずのことですが、子どもたちの育ちをサポートするために学校があるのであって、学校のために子どもたちがいるのではありません。学校に行っていなかったとしても、その子が本来の自分らしく暮らすことができているなら、それはそれでよいのかもしれません。個性を無視した学びを強いられるような環境にあるとしたなら、その方がよほど心配です。いじめを受けるなど、その子なりの育ちを妨げられるような場所を避けるということでは、不登校はむしろ「適応行動」だと捉えることもできます。

問題は登校できているかどうかではなく、子どもたちが自分らしく学び、育つための環境が十分に保障されていないことです。2015年に国立青少年教育振興機構が行った「高校生の生活と意識に関する調査報告書」では、日本の高校生の自己肯定感がアメリカ、中国、韓国のそれと比べて顕著に低いことも報告されています。「無気力」だとされる子どもたちも、もともと「無気力」であったわけではありません。多くはセリグマンらによって提唱された「学習性無気力」という状態に追い込まれているのだとしたら、私たちが努めるべきは「不登校をどうするか」ではなく、その子にふさわしい学びの機会を保障すること、その子なりのペース、その子なりの学び方を尊重すること、学校の中でも外でもより良い子育ち環境を創造することではないのでしょうか。

なぜ、「地域クラブ」だったのか：助成事業で目指したところ

そこで1つの具体的な手立てとして提案したいのが、学校単位で行われているクラブ活動や部活動を「地域クラブ化」することです。教職員の働き方改革だけを目的とするなら、活動の一部をそのまま地域人材に託せばよいかもしれませんが、それだけでは学校に居心地の悪さを感じている子にとっての敷居の高さは変わりません。プロを目指して練習したいという子もいれば、苦手だけど楽しみたいという子もいると思います。そもそも小規模校では選択肢も限られてしまいます。そうでなくとも、例えば岩石や昆虫、演劇や和楽器などに興味を示す子のニーズに応えることはなかなかできません。

活動の場を学校の外に出せば、いじめなどに悩む子には新たな人間関係を築く機会となり得ます。それぞれのニーズや興味、関心にそった活動は、ストレス軽減だけでなく心のエネルギーを充填し、良い循環を生み出すことも期待できます。ここでの目的は、すべての子どもたちがその子なりの興味や関心に応じて、生き生きと学ぶ機会を作り出すことです。もちろんここでの「学び」はもっとも広い意味での「学び」です。

今回の助成事業に関していえば、私たちが目指したのはここに掲げた目的を達成するための糸口をつかむことでした。事業はコロナ禍の影響も大きく受け、様々な課題も明らかになりました。以下に、その詳細を報告させていただきます。

2. 講座紹介

2.1 理科

- Dr.みっけの見っけ
- 自然観察
- おもしろ!ふしぎ?実験隊
- エキスポセンター連携企画・科学体験

理科講座「Dr.みっけの見っけ」2021

講師	いきもの総研 Dr.みっけ 中垣裕貴 https://ikimono-souken.blogspot.com/	
開催日	2021 年	3 月 7 日 13:30～15:00 「土の中の小さな生きもの 1 回目」
		3 月 28 日 13:30～15:00 「土の中の小さな生きもの 2 回目」
		5 月 22 日 13:30～15:00 「プランクトンの観察」
		7 月 22 日 13:30～15:00 「昆虫標本を作ろう①」
		10 月 2 日 13:30～15:00 「クマムシいるかな?コケの中の小さな生き物」
		11 月 27 日 13:30～15:00 「昆虫標本を作ろう②」
		12 月 19 日 13:30～15:00 「チリモンの観察」
		会場:むすびつくば(全講座)

【講座の内容】

身近な生き物に焦点を当て、形や習性などをじっくりと観察し、多様な生き物を知り、楽しむことをねらいとした講座です。7講座開催し、参加者はのべ25名でした。

【講座の流れ】

それぞれの講座の対象となる生き物がちがい、参加者が採取した池の水やコケ、または講師が用意した池の水やコケ・土壌などに生息している生き物を、肉眼や双眼実体顕微鏡・生物顕微鏡を使って観察し、気に入った生き物をスケッチしたり、写真に撮ったりしました。また、昆虫標本作成の回では昆虫標本作り(展翅・展足)にも挑戦しました。

3月 土の中の小さな生きもの

【参加者の声】

- チョウやミジンコをじっくり観察できたのが良かった。
- みっけ先生の T シャツが素敵だった。
- 自分でも微生物を採取して見てみたい。
- クマムシが見れておもしろかった。自分で採取したコケにたくさんの生き物がいるのが見れて嬉しかった。
- いろいろな生物を、顕微鏡で見られて面白かったです。
- 虫を近くで観察することができてよかった。
- チョウの形を整えるのが楽しかった。
- モンシロチョウの羽の形を整えるのが難しかった。

【保護者の声】

- 一人一台の顕微鏡で自分のペースでじっくりできたのがよかったです。
- 先生のお洋服や、講座に関わるキーホルダーなど、講座のテーマが好きな人達がいるという雰囲気があり、子どもは一気にテンションが上がったようでした。
- 知人の紹介で4月の土壌の微生物を探すワークショップから継続して参加しています。わが子が自分からすすんでとりくむ、初めての人と話す、など積極的に対応しているのをはじめてみたような気がします。
- 以前から生き物に興味があったこともあり、非常に楽しかった。
- 会場はいつも混雑せずゆとりがあり、スタッフの方が特性を理解してくれているので安心しています。
- 一人一台の顕微鏡でできること、採取から観察までできることが良いと思っています。
- いつも楽しみにしています。スタッフの方の関わり方も子どもにとって安心できるようで、感謝しています。月に一回程度あると興味が継続してよいですね。
- 理科の観察など、とても楽しみにしています。
- さっそく家でもちりめんじゃこを買って、きょうだいでチリモン探しを楽しんでいました。
- 以前から、チリモンを探してみたいと興味をもっていたので、むすびで体験させていただけてよかったです。
- 子どもがじっくり取り組める環境なのがとても良いです。

7月・11月　昆虫標本を作ろう

【担当者より】

　参加者はとても生き物が好きな方ばかり。教室全体が『生き物大好き！』な空気に包まれながら、自分のペースで観察・実習を行いました。新しい生き物を見つけると「みっけ先生！これ見て！」と講師を呼び、楽しそうに話す姿が多く見られました。好きなものの共有は何にも変え難いことだと思いました。参加者の観察眼の鋭さに驚くことも多く、スタッフとしてこの講座に関わり、こちらが学ぶこともたくさんありました。

理科講座「Dr.みっけの見っけ」2022

講師	いきもの総研 Dr.みっけ 中垣裕貴 https://ikimono-souken.blogspot.com/	
開催日	2022 年	4 月 23 日 13:30～15:00 「ケイソウの観察」
		6 月 25 日 13:30～15:00 「水田の生き物」
		8 月 6 日 13:30～15:00 「昆虫標本を作ろう①」
		8 月 27 日 13:30～15:00 「昆虫標本を作ろう②」
		10 月 1 日 13:30～15:00 「昆虫標本を作ろう」
		10 月 29 日 13:30～15:00 「クマムシいるかな?コケの中の小さな生き物」
		会場:むすびつくば(全講座)

【講座の内容】

身近な生き物に焦点を当て、形や習性などをじっくりと観察し、多様な生き物を知り、楽しむことをねらいとした講座です。6講座開催し、参加者はのべ18名でした。

【講座の流れ】

2021年と同様

【参加者の声】

- ケイソウが石についていたのが、おもしろかった。顕微鏡が良く見えた。他のものも見てみたいと思った。
- ミジンコが見れなかったのでもう一度やりたい。自分で見つけられるようになりたい。
- 顕微鏡の使い方や生物の観察など、いろいろなことが学べて、とても楽しかったです。特にヒルの行動の特長に興味を持ちました。顕微鏡を久しぶりに使用して、もっと色々な物を観察してみたいと思いました。ありがとうございました。
- 昆虫の身体をおさえて針をさすというのをはじめて自分でできたので、いい経験になりました。みっけ先生が用意してくれた甲虫を何匹もやらせてもらえてとても楽しかったし、うれしかったです。今飼っているカブトムシも死んだあとは大切に標本にしたいとおもいます。ありがとうございました!!

【保護者の声】

- 学校の理科の授業に出席しないと顕微鏡に触れることはなかなかないので、とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
- 参加する度に楽しかったと言っています。講座の内容が興味に合っていることも勿論ですが、スタッフの方々があたたかく、居心地が良いのだと思います。
- 小グループで和気あいあいと標本作りが楽しめてよかったです。息子と息子の友達も和やかな雰囲気でリラックスできて、みっけ先生に質問したりもできて有意義な時間でした。

【担当者より】

昨年度に引き続き、今年度も Dr.みっけ講座は好評でした。参加した子どもたちは生き物が大好きで、”好き!”という気持ちがあふれていました。次々と生き物を探してみつける子、一つの生き物をじっくりと観察する子、いろいろな観察スタイルがありました。写真や動画を撮ったり、テキストのメモ欄にスケッチしたりと残し方も人それぞれでした。また自分スタイルだけでなく、周りの子たちに刺激をもらっていろいろ挑戦する子もいまいした。生き物に触れ、観察するだけでなく、学び合いの場が提供できたことも良かったと思いました。

理科講座「自然観察」

講師	八畑謙介 筑波大学生命環境学系	
開催日	2021 年	3 月 3 日 10:00～12:00「もうかえっちゃうカモ 冬の水鳥」 会場：乙戸沼公園
		6 月 11 日 13:00～14:30「虫めがねと双眼鏡で自然観察 ～草花から野鳥まで～」 会場：洞峰公園

【講座の内容】

花鳥風月に親しみ、自然と生命を愛する心を育むことをねらいとした講座です。2 講座開催し、参加者はのべ 7 名でした。

【講座の流れ】

双眼鏡や虫メガネ持って公園に出かけました。野鳥や昆虫、樹木、草花を見つけると肉眼で観察し、さらに詳しく観察するために道具を使いました。それぞれに見つけた生き物を参加者同士で教えあったり、図鑑で調べたりしました。

【参加者の声】

- オナガカラスがみれた。今までみたことがなかった花の名前や性質がしれた。
- 朽ち木の下にシロアリがいたこと、また、ボールペンで引いた線にグルグル付いてきたことがとてもびっくりした。
- 写真をとりたかった。

洞峰公園での観察

【保護者の声】

- ほかの講座の案内で知り、本人が野鳥観察も行きたいと参加しました。
- 小中高と「自然」(特に昆虫)が大好きであちこちの観察会やイベントに参加していましたが、別に没頭する趣味をみつけたために長らく「自然」から遠のいていました。久しぶりの自然観察会で明るい時間に公園を散歩する機会に恵まれたことで、忘れそうになっていた大切なことを思い出せたような気がしています。(たぶん人間は自然界から大事なものを気付かないうちにたくさんもらって生きているのですよね、例えそれが目に見えないものだとしても。)こういった機会でなくても以前のようにまたフィールドワークに外に出たいね、という話を本人としました。

乙戸沼公園での観察

【担当者より】

この講座は自然相手なので、当日どんなものが見られるのか、全てを想定することはできません。だからこそ参加者もスタッフも同じ目線で生き物を見つける楽しさがあります。普段見慣れている公園にも新しい発見があります。そんな楽しさを子どもたち同士で、さらにスタッフも交えて共有できました。植物から動物（昆虫や鳥など）幅広く生き物を観察することができました。

理科講座「おもしろ！ふしぎ？実験隊」

講師	久保利加子 https://hmslab1.jimdofree.com/	
開催日	2021 年	11 月 27 日 10:30～12:00「光のジュースで遊ぼう！」 会場：むすびつくば
		12 月 18 日 10:30～12:00「偏光板で、クリスマス！」 会場：むすびつくば
	2022 年	1 月 23 日 10:30～12:00「ぷよぷよすくいのボール（消臭ビーズ）で、科学マジック！」 会場：吾妻交流センター
		5 月 21 日 10:30～12:00「文房具で科学する！パート1」 会場：むすびつくば
		7 月 23 日 10:30～12:00「飛び出せ！3D を科学する！」 会場：むすびつくば
		8 月 27 日 10:30～12:00「試作！工作！アニメマシン」 会場：むすびつくば
		11 月 20 日 10:30～12:00「びよよ～～～ん！ゴムの実験」 会場：むすびつくば
		1 月 28 日 10:30～12:00「光のジュースで遊ぼう！」 会場：むすびつくば

【講座の内容】

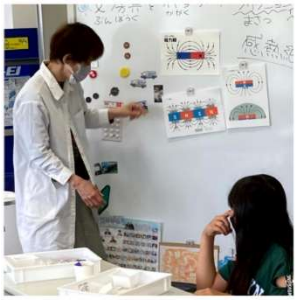
私たちの身近に起こるおもしろい！ふしぎ？と思われる現象について、科学の目から謎解きをします。工作・実験を通して、科学の探究を楽しむことをねらいとした講座です。8講座開催し、参加者はのべ27名でした。

【講座の流れ】

テーマを決め、そのテーマに沿ってさまざまな工作・実験を行いました。毎回たくさんの実験を行うことができ、また実験で使った作品は持ち帰ることができたので、講座が終わっても自宅等で楽しむことができました。

光のジュースであそぼう

ぷよぷよすくいのボール(消臭ビーズ)で、科学マジック！



文房具を科学する！パート1

【参加者の声】

ゴムの実験

- 実際に触ったり、見たり、実験できたのが良かった。
- 透明テープに光が当たったときの赤や青の色の不思議がわかった。
- 身近な物質で手軽に科学の事を学べるのが良いと思いました。
- 屈折率について知ることができてよかった。家にあるものでプラバンを作って、スノードームを作ってみたい。
- 実験が楽しかったです。特に、フリクションマーカーが下から順番に消えていく場面と、お花が開いていく場面が見れてよかったです。最後のしおり作りも楽しかったです。
- 火とかを使う実験をしてみたいです。サバイバル的な要素を入れると面白いかもしれないと思います。

【保護者の声】

- 理科が苦手だと本人は思い込んでいたようですが、参加後「実験面白かった！学校の授業もこんな感じだったら好きになるのに」と言っていました。
- 対象外の弟も同行させて頂くことができ、アットホームな雰囲気で本人も安心して参加できたようです。ありがとうございました。
- 大人も少し賢くなれるのが嬉しいです。高分子ポリマーなど化学物質や光の屈折率など、不思議現象の背景にある理屈に興味を持って貰えたら嬉しいと思いました。
- 消えるボールのマジックを、とても楽しそうに見せてくれました。ありがとうございました。
- 今回は沢山の実験が見れて子ども達は喜んでいました。実験の数をしぼって、実際に子どもにやらせてじっくり発見させるというやり方も楽しいかもしれないと感じました。工作の時間がたくさんあったり、たくさんのお土産があったりで大満足の内容でした。素敵な講座をありがとうございました！
- 子どもにとって新しい発見や学びの一日となりました。ありがとうございました。

ゴムの実験

飛び出せ！3D を科学する！

試作！工作！アニメマシン

【担当者より】

毎回、身近に見られる科学現象がテーマで、比較的簡単に手に入れることができる物を使って工作・実験を行いました。そのためもあってか低学年の参加者にも楽しんでもらえたと思います。講師の希望もあって、多くの保護者の方も参加し、親子で科学実験を楽しむ姿が見られました。後日、ご自宅でも実験をして楽しんだという声が聞かれました。私自身も『おもしろい！ふしぎ？』という言葉が出るような科学の目を持ちたいと思いました。

理科講座「エキスポセンター連携企画・科学体験」

講師	エキスポセンター　加藤升・菊川真以 https://www.expocenter.or.jp/	
開催日	2021 年	10 月 20 日 13:30～15:00「潜望鏡と鏡のはなし」 会場：つくばエキスポセンター
		11 月 10 日 13:30～15:00「ヘロンの噴水」 会場：つくばエキスポセンター
		12 月 22 日 13:30～15:00「くるくるアニメーション」 会場：つくばエキスポセンター
	2022 年	1 月 26 日 13:30～15:00「手作りプラネタリウム」 会場：つくばエキスポセンター
		11 月 16 日 13:30～15:00「化石レプリカ作り」 会場：つくばエキスポセンター
		12 月 14 日 13:30～15:00「ビー玉迷路」 会場：つくばエキスポセンター・オンライン
	2023 年	2 月 15 日 13:30～15:00「手づくりプラネタリウム」 会場：つくばエキスポセンター・オンライン

【講座の内容】

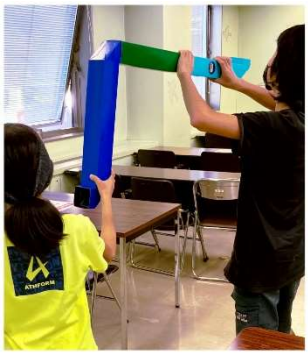
つくば市吾妻にある科学館「つくばエキスポセンター」の科学教材と学芸員の方々の協力のもと、実験・実習を通して理科や科学の世界の楽しさを紹介し、子どもたちに理科や科学に対して興味を持ってもらうことをねらいとした講座です。7講座開催し、参加者はのべ26名でした。

【講座の流れ】

毎回、科学館「つくばエキスポセンター」の教室を使って行いました。それぞれの講座のテーマに沿った講義と実験・実習がセットになっていました。実験に使う工作キットはひとり1セットあり、時間も十分あり、内容も含めてとても充実したものでした。

【参加者の声】

- 色々な鏡の使い方が分かって面白かった。
- ティラノサウルスなどの歯が近くで見られて良かった。
- とても楽しかった。難しさは、ちょっと難しかった。おうちの人に手伝ってもらわないと難しかった。
- 迷路が楽しい。



潜望鏡と鏡のはなし

ヘロンの噴水

【保護者の声】

- いつも楽しく参加させていただいています。理科の実験のようなことは子どもが興味があっても家でなかなか出来ないので嬉しいです。
- ずっと体験したかった化石レプリカ作りだったので、学校が短縮授業の日と重なり、運良く参加できて良かったです。楽しく過ごせたようで満足そうでした。ありがとうございました。
- 届いたビー玉迷路のキットを家であけたとき、とても子どもたちが喜んでいました。落ち着ける場所で取り組めたのが、とても良かったです。集団が苦手で(長期の不登校です)、さまざまな講座に、ここのところ満足に参加できたことがなかったので、オンラインはとてもありがたかったです。zoom の時間も 15 分ほどと、うちの子にとっては、ちょうど良い長さに感じられました。
- 親子で集中して一つのことを作業する機会を家ではなかなか取れずにいたので、他の事に邪魔されず親子で楽しく作業できたので嬉しかったです。
- 不登校の子が外に出るきっかけを作って頂いていることに、大変嬉しく思います。ありがとうございます!

くるくるアニメーション

化石レプリカづくり

ビー玉迷路

手づくりプラネタリウム

【担当者の声】

本講座は科学館のお力をお借りして実現できた講座です。科学館や出前教室等でたくさん経験がある方々の講座は、私にとりましても学ぶことが多く、たくさんの刺激をいただきました。講座の前後に科学館を見学するご家庭もあり、ご家族皆さんで科学に親しむ姿が見られました。つくば市にはエキスポセンターの他にも身近に科学に触れることができる施設があります。今回の講座で 1 人でも多くの子どもたちが科学に興味をもつきっかけになれれば大変嬉しいです。

2. 講座紹介

2.2 たいけん

- ごきげん農業プログラム
  ～野菜体験コース～
  ～お米体験コース～
  ～いろいろ体験コース～
- イラストレーター体験
- 演劇体験
- ギターを弾いてみよう～ギター体験会～
- アフリカ太鼓教室ジャンベでトントン
- プログラミング体験
- スケートボード体験
- Next one.「ぷらスポ」定期教室

それぞれの夢中に飛び込む ごきげん農業プログラム

～野菜体験コース～

講師	NPO 法人つくばアグリチャレンジ　代表：伊藤 文弥　担当：川上 沙羅 https://gokigenfarm.com	
開催日	2021 年	6 月 26 日 10:00～13:00「ジャガイモ収穫＆春夏野菜観察会」 会場：ごきげんファーム大角豆
		11 月 20 日 10:00～13:00「あずき収穫＆あんこ作り体験」 会場：ごきげんファーム大角豆
		※10月「さつまいも収穫＆秋冬野菜観察会」を計画していましたが、緊急事態宣言の延長および感染拡大状況により中止としました。
	2022 年	11月12日 10:00～13:00「じゃがいもを収穫しよう！」 会場：ごきげんファーム大角豆
		9 月 10 日 10:00～13:00 オプション「イチジクを収穫しよう！」 会場：ごきげんファーム大角豆
	2023 年	1 月 14 日 10:00～13:00「ネギ・にんじん・白菜を収穫しよう！」 会場：ごきげんファーム大角豆

じゃがいもの収穫

【講座の内容】

2022 年度は下記のように計画しました。
第1回：じゃがいもを植えよう！<中止>
第2回：じゃがいもを収穫しよう！
第3回：ネギ・にんじん・白菜を収穫しよう！
オプション（お米・野菜・いろいろ共通）：イチジクを収穫しよう！
2021年度、2022年度合わせて、5講座開催し、参加者はのべ46名でした。

【講座の流れ】

ごきげんファームの各事務所に集合し、季節の野菜の収穫体験をします。その後、希望者はごきげんファームで用意してくれた野菜たっぷりの昼食をとりました。

【参加者の声】

- じゃがいもが、種類によって大きさや形が違っていて驚いた。
- じゃがいもがどんどん見つかって面白かった。
- 白菜が大きかった。

【保護者の声】

- 宝探しをしているようで、面白かった。
- 子どもが小学生のうちに、普段できない経験をさせたいと思っていたので、農業体験ができてよかった。
- 体験が終わった後に、美味しいお昼ご飯をいただけるのも嬉しかった。

ネギ・にんじん・白菜の収穫

【担当者より】

普段、食事の時に見ている野菜と、収穫前の野菜の姿の違いを体感でき、畑に着くなり歓声が上がっているのが印象的でした。野菜も、種類によって植え方が違うことも体感でき、野菜への理解が深まるいい講座だと感じました。集合時には硬い表情をしていた子も、土に触れると表情が和らぎ、帰る頃にはいい笑顔になっている子が多く、土に触れることの重要さを改めて感じました。

イチジクの収穫

それぞれの夢中に飛び込む ごきげん農業プログラム

～お米体験コース～

講師	NPO 法人つくばアグリチャレンジ　代表：伊藤 文弥　担当：川上 沙羅 https://gokigenfarm.com	
開催日	2021 年	5 月 29 日 10:00～13:00「お米の手植え体験」 会場：ごきげんファーム茎崎
		※8 月「田んぼで生き物探し&お米の勉強会」、10 月「稲刈りと脱穀体験」を計画していましたが、緊急事態宣言の延長および感染拡大状況により中止としました。
	2022 年	5 月 28 日 10:00～13:00 「お米の手植えをしよう!」 会場：ごきげんファーム茎崎
		10 月 15 日 10:00～13:00 「稲刈りをしよう!」 会場：ごきげんファーム茎崎
		10 月 29 日 10:00～13:00 「脱穀をしよう!」 会場：ごきげんファーム茎崎

【講座の内容】

田植えから収穫・脱穀まで、一通りを体験できるように3回シリーズで計画しました。2021年度、2022年度合わせて、4講座開催し、参加者はのべ46名でした。

【講座の流れ】

ごきげんファームの田んぼに集合し、手植え・収穫・脱穀などの体験をします。その後、希望者はごきげんファームで用意してくれた野菜たっぷりの昼食をとりました。

2022年第1回 お米の手植えをしよう！

【参加者の声】

- お米が硬いと初めて知った。
- 稲を刈るのがとても大変だということが初めて分かって良かった。
- 初めて田んぼに入ったが、田んぼでザリガニやカエルを捕まえることができてとても楽しかった！
- お米作りが大変なことが分かって良かった。手で脱穀すると、籾殻が外れて玄米が出てくるのがよく見えて面白かった。
- 全部の体験をまたやりたい。

2022年第2回　稲刈りをしよう！

【保護者の声】

- どこかで手植えを体験したいと思ってようやくこの講座に辿り着いた。今後もこの様な体験ができる場所があると嬉しい。
- 田んぼに入った経験がない子ども達は少ないと思うので、この企画を続けてほしい。
- お米ができるには長い年月と人の手がかかるということが体験でき、よかったと思います。手での脱穀がものすごく大変だということが印象に残っています。
- 毎日食べているお米がどうやってできるのかを体を使って学べるのがいいと思った。お米が主食の日本人なら、小学生の頃に全員体験して欲しいなと思いました。
- 体験活動もさることながら、毎回ランチが美味しくて楽しみでした。

2022年第3回　脱穀をしよう！

【担当者より】

脱穀をする時に、数粒お米がこぼれたのを見て、「あっ!もったいない!」と言って全部拾い集める子がいるなど、講座全体を通して食べ物のありがたみ、大切さを体感する時間になっていたのが印象的でした。また、手植え体験は、県外からも申し込みがあるなど、かなりニーズの高い講座だと感じました。

それぞれの夢中に飛び込む ごきげん農業プログラム
～いろいろ体験コース～

講師	NPO 法人つくばアグリチャレンジ　代表：伊藤 文弥　担当：川上 沙羅 https://gokigenfarm.com	
開催日	2021 年	5 月 15 日 10:00～13:00「平飼い養鶏の仕事体験」 会場：ごきげんファーム上郷
		7 月 10 日 10:00～13:00「竹林探索と竹細工体験」 会場：ごきげんファーム大角豆
		※9月「藍染体験」を計画していましたが、緊急事態宣言の延長および感染拡大状況により中止としました。
	2022 年	4月9日 10:00～13:00「養鶏体験をしよう!」 会場：ごきげんファーム上郷
		11月12日 10:00～13:00「竹細工体験をしよう!」 会場：ごきげんファーム茎崎
		12月3日 10:00～13:00「農業の道具や機械を体験しよう!」 会場：ごきげんファーム大角豆 ※「あずきの収穫体験とあんこ作り」を予定していましたが、あずきの生育状況がよくないため、内容を変更しました

【講座の内容】

養鶏や竹細工、畑作業の道具や機械などお米や野菜以外の農業体験を計画しました。2021年度、2022年度合わせて5講座開催し、参加者はのべ44名でした。

【講座の流れ】

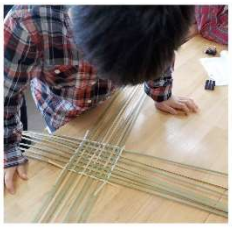
ごきげんファームの各事務所に集合し、養鶏・竹細工・農業器具などをファームの方の説明を聞きながら体験する。その後、希望者はごきげんファームで用意してくれた野菜たっぷりの昼食をとりました。

2022年第1回 養鶏体験をしよう！

この日は気温が22°Cと初夏のような陽気でしたが、ごきげんファーム代表の伊藤さんの案内のもと、籾殻のえさをあげたり、産みたての卵を集めたり、子どもたちは元気に鶏のお世話をしました。伊藤さんの話もとてもためになりました。

2022年第2回 竹細工体験をしよう！

ごきげんファーム茎崎さんの指導で、竹かごを作りました。低学年さんには難しそうな所がありましたが、親子で協力して作っていました。



【参加者の声】

・ 鶏がかなりたくさん餌を食べていたのが印象的だった。
・ 竹細工が面白かった。次はもっとすごいカゴを竹細工で作ってみたい。

2022年第3回　農業の道具や機械を体験しよう！

元々は「あずきの収穫体験とあんこ作り」を予定していましたが、あずきの生育状況がよくなかったため、農業の道具や機械を体験する回になりました。

畑をたがやすのに使う鍬など、手作業で使う用具の説明・体験から始まり、耕運機、トラクターと農業機械の進化の歴史をたどるような内容で、とてもよかったです。

【保護者の声】

- どのプログラムも、子どもたちが好きな手作業ばかりだったので、集中して取り組むことができた。
- 鶏がひっきりなしに鳴いているのが印象的だった。餌へ突進する様子が迫力あった。
- 色々な鶏や卵が見られて、卵も取ることができて面白かった。
- 季節の野菜満載の美味しいお米とおかずのお食事も、食いしん坊の我が家は楽しみの一つだった。
- 自分たちが住むまちで身近に農業などに携わる体験ができるのが良かった。また機会があれば体験に参加したい。

【担当者より】

農業の道具・機械体験を通して、今まで実施したプログラムの背後にはごきげんファームで様々な準備や作業があったのだと感じることができ、とてもいい講座だと感じました。

竹細工体験は、なかなかできないプログラムなので、参加者も突出して多かったのが印象に残っています。

イラストレーター体験 プロのテクニックを学ぼう

講師	イラストレーター 小沢 陽子 https://yoko-oz.tumblr.com/	
開催日	2021 年	7月27日・28日16:00～17:30「手書きしたペン画をAdobe Photoshopで着色しよう」
		8月3日・4日 16:00～17:30 「Adobe Photoshopを使ってイラストを描いてみよう（入門編）」
		10月23日・24日14:00～15:30 「Adobe Illustratorを使ってイラストを描いてみよう（入門編）」
	2022 年	6月26日 14:00～15:30「クロッキーを体験してみよう」
		会場：むすびつくば（全講座）

【講座の内容】

つくば市で活動するプロのイラストレーターを講師に招き、パソコン、ペンタブ、ソフトを使ったデジタルイラスト制作や、紙と鉛筆を使ったクロッキー（速写）を体験できる講座です。4講座（7日間）開催し、参加者はのべ20名でした。

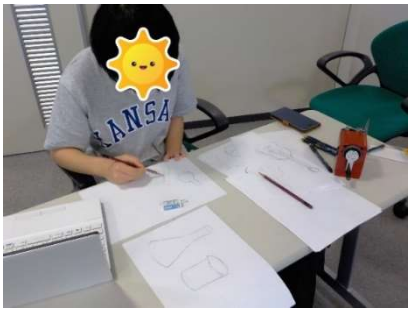
【講座の流れ】

デジタルイラスト制作は、3コースに分かれてツールの特色を学びながら制作を行いました。

クロッキー体験は、描く人物のバランスの取り方のレクチャーの後、参加者それぞれがモデルになりながら、短い時間で特徴を捉え、素早く描く練習をしました。

【参加者の声】

- いつもは紙やタブレットで描いているので、新しい描き方が学べて楽しかった。
- イラストレーターをさわる機会ができたのが良かった。
  ペンタブで絵を描く経験ができたこと、少しでもPhotoshopを触れたことが良かった。CMYKで色を作るのが難しかった。
- イラストの書き方も習いたいと思いました。



【保護者の声】

- なかなか体験の機会がない内容でありがたかったです。ありがとうございました。
- 講師の方の丁寧な対応で、楽しかったようです。
- 少ない人数でゆったりと受講できたのが、参加しやすく良かったと思います。
- Photoshop。気になってはいたものの、使う機会がなかったので、Photoshopとはどんなものか知るきっかけができてよかったです。

【担当者より】

今回の講座ではプロが使用しているソフトやツールの使い方だけでなく、イラストレーターがどのように仕事を行っているのかなど、職業としてのイラストレーターについても話を聞く機会にもなったと思っています。

初めてデジタルで制作を行う子もいましたがそれぞれのペースで制作を楽しんでいる様子が見られました。講座体験後にパソコンとツールを購入し、アナログからデジタルに移行した子もいました。

この講座を通して、世の中に流通しているものがどのように生まれてきたのかを知る機会や、作りたい、表現したいと思える物事との出会いが大切だと実感しました。講座参加者にはアナログやデジタルにとらわれず、描きたいもの、表現したいものを自分にあった方法で描くことをそれぞれの強みとして続けていってほしいと願っています。

演劇体験

えんげき部@つくば		
開催日	2021 年	「"贋作マクベス”を読もう」講師：百景社 志賀亮史 3 月 10 日(水)14:00～15:30　会場：オンライン 3 月 23 日(火)16:00～17:00 会場：オンライン
		「"いかけしごむ”を読もう」講師：百景社 志賀亮史 6 月 13 日(日)14:00～16:00 会場：むすびつくば
		「マンガ&ジェスチャー」講師：百景社 志賀亮史 6 月 20 日(日)14:00～16:00 会場：むすびつくば
		「なりきるっておもしろい！カードゲームであそぼう」講師：つくば子ども劇場 7 月 11 日(日) 14:00～16:00　会場：むすびつくば
		「平家物語を読もう」講師：つくば子ども劇場 8 月 26 日(日) 14:00～16:00　会場：オンライン 9 月 12 日(日) 14:00～16:00　会場：オンライン 9 月 26 日(日) 14:00～16:00　会場：オンライン 10 月 10 日(日) 14:00～16:00　会場：オンライン 11 月 7 日(日) 14:00～16:00　会場：さくら民家園+オンライン
		「ジャグリングを体験しよう」講師：筑波大学ジャグリングサークル Sheep 11 月 28 日(日) 14:00～16:00　会場：大清水公園 12 月 12 日(日) 14:00～16:00　会場：竹園公園

演劇クラブ@みと ワークショップ「感じる×伝えあう×表現する」		
講師	長山 泰久	
開催日	2021 年	10 月 31 日(日) 20:00 ～ 21:30 会場：オンライン

えんげき部：百景社 志賀 亮史氏との演劇体験活動（全 5 回）

【講座の内容】

地域の劇団を主宰する志賀氏の協力を得て、戯曲を読んだり、ジェスチャーゲームで体の表現をしたり、好きな漫画の場面を表現したりといった活動を展開しました。

講師からは、動画を使って作品背景に触れるレクチャーもあり、参加者の演劇への関心を高めることができました。また、つくば子ども劇場さんのサポートにより、参加者がやってみたいことを尊重しながら次の活動につなげる流れづくりや、安心できる人間関係づくりへの配慮がされており、「えんげき部」としてのコミュニティが醸成されていました。5講座開催し、参加者はのべ10名でした。

【参加者の声】

・自分の表現について（普段関わることのない方からの）客観的な意見が聞けたことがよかった。
・来ている人たちが優しくて、教えてくれる人が丁寧に教えてくれました。難しくて、わからないこともありましたが、できるところは参加できました。

【担当者より】

演劇に関心のある子どもたちと多様な世代の大人が集まり、それぞれの個性や想像力を発揮するとともに、お互いの世界に触れて楽しむことができました。

えんげき部：平家物語を読みあおう（全5回）

【講座の内容】

「えんげき部」参加者の中から「古典を読んでみたい」との声があがり、平家物語巻十一「那須与一」を読みあうことになりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い不安のある参加者もいたため、完全オンラインで4回開催し、最後の琵琶セッション回のみ、対面＋オンラインのハイブリッドで開催しました。

まずは、古典の原文と現代語訳を読み比べながら、気になる単語の語源や由来を調べあい、作品を理解しました。また、各自が小道具やキャラクターをつくって、朗読役が原文を読み上げ、他の参加者が作品をカメラに映すオンラインワークも行いました。

最終回では、琵琶奏者の児玉氏を講師に迎え、本物の琵琶に触れたり、平家物語の琵琶語りを聞いたりしました。参加者の朗読に合わせて琵琶を演奏していただき、皆で作品の世界を深く味わうことができました。5講座開催し、参加者はのべ17名でした。

【参加者の声】

- ZOOM参加でしたが音声よく聞こえました。聞く機会の少ない琵琶の音が聞けてよかったです。
- 実際に琵琶に触れたことで、琵琶という楽器についてよく知ることができました。

【担当者より】

これまでの参加者からの声で始まったテーマでしたが、新しい仲間の参加もあり、対話を繰り返しながら、作品を深く理解し味わう体験ができました。

えんげき部：ジャグリング体験をしよう（全２回）

【講座の内容】

小学生も対象とした舞台表現活動の一環として、地域の大学生を講師にジャグリング体験会を行いました。大学生によるパフォーマンスを観覧した後、けん玉、ヨーヨー、皿回し、ディアボロ、ボール、フラワースティックの6種目に分かれて、体験会を行いました。

2時間同じ種目に挑戦し続ける子もいれば、すべての種目に挑戦する子もいて、大学生がそれぞれの子ども達に合わせて技の習得をサポートしてくれました。2講座開催し、参加者はのべ19名でした。

【参加者の声・保護者の声】

- 教えてくださった方の教え方が上手で、みんなが楽しめたことが良かったです。
- 投げてキャッチするのが気持ちよかったです。
- 皿回しをやりたかったが難しくできないままだった。できるための補助具をつけたものなどが用意されていて、少しでも「できた」が体験出来たら良かった。
- 本人がやりたかったことが全てできたのでよかったです。
- 飽きっぽい息子が時間いっぱい夢中になって楽しんで新たな技に挑戦しようとしていたのが印象的でした、ありがとうございました。

【担当者より】

参加者が初回 12 名と多く集まり、ふだん触ることのできない道具に触れて、子どもたちが前のめりで挑戦し続ける様子が印象的でした。

地域の公園で開催したことで、飛び入りで参加したいという子が現れ、事業全体の広報にもつなげることができました。また、子ども達を見守る大人同士のつながりも深めることができました。

特に低学年の子に対しては、ステップを踏んで達成感を味わえる仕組みを用意しておくともっと良かったと思っています。

ギターを弾いてみよう～ギター体験会～

講師	茨城新堀ギター音楽院長 榎森保夫	
開催日	2021 年	4 月 10 日 10:30～11:30
		5 月 8 日 10:30～11:30 会場： たかさい地域コミュニティスペース「めぐりあい広場たかさい」
		6 月 12 日 10:30～11:30 会場： たかさい地域コミュニティスペース「めぐりあい広場たかさい」
		7 月 10 日 10:30～11:30
		8 月 28 日 10:30～11:30
		10 月 23 日 10:30～11:30
		11 月 13 日 10:30～11:30
		11 月 27 日 10:30～11:30
		12 月 11 日 10:30～11:30
		12 月 25 日 10:30～11:30
	2022 年	7 月 9 日 10:30～11:30
		7 月 23 日 10:30～11:30
		9 月 3 日 10:30～11:30
		9 月 24 日 10:30～11:30
		11 月 12 日 10:30～11:30
		会場：記載のない日は「かふぇまる café&studio カフェスペース」

【講座の内容】

ギターで奏でられる音楽を聴いたり、実際に弾いてみたり、ギターを気軽に体験できる会です。ギターの貸し出しも行っているので、手ぶらで参加できます。体験してみて、もう少しやってみたいと思ったら続けて参加もできます。

当初クラッシックギターだけでしたが、2022年から、フォークギターも追加しました。15講座開催し、参加者はのべ40名でした。

【講座の流れ】

最初は、ドレミ・・・の基本の音階が弾けるように練習しました。あとは、それぞれの進度に合わせて先生が指導をしてくれました。

【参加者の声】

・ 初めてギターに触れて緊張したけど、少し弾けた事が楽しかったです。
・ 曲を弾けるようになる楽しさと、弾けるようになったという達成感を得られました。

【保護者の声】

・ 音楽は聴く一方でしたが楽器に触れる機会を与えてくれてとてもありがたい事です。
・ 継続して参加していたせいか、先生が発表会で弾くことを目標設定してくださいました。少しハードルはあがったかもしれませんが、本人にとって「できた」という自信につながったのではないかと思います。

【担当者より】

ギターは参加するのにハードルが高いのか、参加者を募るのが大変でした。参加できる機会がないとなかなかギターを体験できないので、続けることで体験できる子どもたちが増えて良かったと思います。気軽に参加できる機会はとてもいいのではないかと思います。

アフリカ太鼓教室ジャンベでトントン

講師	ファイ シーディ(Faye Sidy) sidy.ak.arame (https://sidy-arame.wixsite.com/sidy-faye)	
開催日	2021 年	5 月 29 日 14:00～14:30　会場:オンライン
		6 月 19 日 14:00～14:30　会場:つくばカピオ リハーサル室2
		8 月 28 日 13:30～14:00　会場:オンライン
		12 月 5 日 14:30～15:30　会場:つくばカピオ リハーサル室2

【講座の内容】

ジャンベとは主に西アフリカで叩かれている太鼓です。講師には、西アフリカセネガル出身で、伝統音楽家グリオの家系に生まれ、セネガル伝統のサバール太鼓のグループリーダーとして地元ルーガで圧倒的な人気を集めて活躍しているファイシーディさんをお迎えしました。

講座の内容は、講師とも何度も相談を重ね、① セネガルを知ってもらう「セネガルクイズ」と ② ジャンベ演奏体験の2本立てにしました。ジャンベは現地の方が手作業で作った本物を用意しました。本場のジャンベに触れたり、一緒に叩いたりして、アフリカのリズムと音色を楽しめる講座になりました。2022年度も講座を企画していましたが、緊急事態宣言が出され中止にせざるを得ませんでした。また、講師の一時帰国も重なり、宣言解除後も講座の実施をすることができませんでした。4講座開催し、参加者はのべ16名でした。

【参加者の声】

- リズムをとるのが少し大変でした。
- 太鼓を手でたたくと手から太鼓の響きが伝わり気持ちよかった。
- リズムが難しかったけど、いいね、と褒められて嬉しかったです。
- 言葉が通じなくても音(音楽)を出すことで気持ちが通じ合える(ような気がする)、ということを体感出来て楽しかったし嬉しかった。

【保護者の声】

- セネガルのクイズもありアフリカのことがわかって楽しい時間でした。
- 思いがけず見学させていただくことが出来て大変有難かったです。帰り道、アフリカの音楽についての話題でとっても盛り上がりました。
- 初めてジャンベを体験しました。友達の家にジャンベがあるのですが、うまく音が出なくて、、、なんとなくコツが掴めて楽しかったです。

【担当者より】

- 本物のジャンベという太鼓を体験する機会はなかなか味わえないので、実際の太鼓の響きを体感できたことは臨場感があり、講師のプロ演奏を間近で感じることができ楽しかったです。
- オンライン講座では「身近にあるものを色々叩いてみよう」と題し、段ボールやペットボトルなど、自宅にある音が出るものを用意してもらいました。講師が華麗な手さばきで段ボールを叩き、リズムを奏でる姿には驚きました。講師が叩くとどんなものでも楽器になってしまう…、子ども達に「本物に触れる」時間を提供できたのではないかと思います。

プログラミング体験

講師	楽しい電子工作サークル 田中 秀隆	
開催日	2021 年	5 月 21 日 13:00～16:00 会場：県西生涯学習センター
		8 月 21 日 10:00～11:30 会場：わいわいハウス

マイクロビットのプログラミング体験会

【講座の内容】

プログラミング教育用に開発されたmicro:bit（マイクロビット）という小型のマイコンボードを使い、LEDに文字やアイコンを表示させたり、アイコンを使った簡単なゲームを作成したり、音を鳴らしたり、いろいろ挑戦しました。

マイクロビットは楽しい電子工作サークルさんから貸し出していただき、プログラミングを行う端末（ノートPCやタブレット）は参加者持ち込み（もしくは、電子工作サークルさんにて貸し出し）で実施しました。2講座開催し、参加者はのべ9名でした。

【参加者の声】

- 音を出せたり、ゲームを自分で作れて楽しかった。
- いろんなことができることがわかった。
- 作りたい物を集中して作って、満足いくまで修正しながら完成させることができたことがよかった。
- マイクロビットは簡単なものなら簡単に作れるので、プログラミングに取り組みやすいと思いました。

5月の体験会の様子

【保護者の声】

- iPad などを使ったプログラミング体験を子どもにさせたかったので参加した。帰りの車の中で「機械は真面目だね！」と言っていたのがおもしろかった。
- 子どもたちが熱中していて、来て良かったなと思いました。
- 日曜の午後は参加しやすいので良かったです。

8月の体験会の様子

【担当者より】

子どもたちは、プログラミングに集中したせいか、終わるころには疲れたといっていました。自分が思う通りにプログラミングすることはなかなか難しいと感じた部分もあったようですが、思う通りにできた時の達成感を味わうことができたと思います。また、指導していただいた電子工作サークルの方々の柔らかい人柄や雰囲気も感じてもらえたのではないかと思いました。

スケートボード体験

講師	K2SURFBOADS 小口 勝裕 http://k2surfboards.jp/	
開催日	2021 年	4 月 21 日 10:30～11:30 会場:Waiwai ドームしもつま スケートパーク
		6 月 24 日 17:30～18:30 会場:Waiwai ドームしもつま スケートパーク
		8 月 5 日 17:30～18:30 会場:Waiwai ドームしもつま スケートパーク
		11月 11 日 17:30～18:30 会場:Waiwai ドームしもつま スケートパーク
	2022 年	3 月 10 日 17:30～18:30 会場:Waiwai ドームしもつま スケートパーク

スケボーパークであそぼう～スケボー体験～

【講座の内容】

初心者向けのスケートボード体験講座です。用具は会場でレンタルできるので、「試しにちょっとやってみたい」という場合でも気軽に体験することができます。5講座開催し、参加者はのべ14名でした。

【講座の流れ】

初回はスケートボードの乗り方を教えてもらい、片足ケンケンでスケートボードがこげるように練習します。スケートボードに乗れるようになると、ターンのやり方を教えてくれたりして、回を重ねるごとにできることが増えていきます。

【参加者の声】

- スケボーの楽しさを知ることができた、またやってみたいほどたのしかった。

【保護者の声】

- 時間も参加できるちょうどいい時間でした。よかったです。

【担当者より】

最初は、おっかなびっくりな感じでスケートボードに乗っていましたが、小口先生が優しく教えてくれたので、終わりの頃はそれぞれが楽しそうに、転びながらも、積極的に滑っていました。お母さま方も、嬉しそうに見守ってくれていました。

Next one.「ぷらスポ」定期教室

講師	NPO 法人 Next One. https://www.npo-nextone.com/	
開催日	2021 年度	6月～3月まで実施（8 月、9月、2 月を除く） 毎月 第1・3・5 木曜日 19:00～20:30 会場：学園の森義務教育学校 体育館
	2022 年度	5月～3月まで実施 毎月 第1・3・5 木曜日 19:00～20:30 会場：学園の森義務教育学校 体育館

【講座の内容】

日常生活に『ぷらすスポーツを』＆『ぷらっと来れるスポット』をテーマにした、定期的なスポーツ教室です。スポーツは得意な方ではないけれど身体を動かしてみたい、ゆっくりしたペースで楽しくスポーツを楽しみたい、という子も気軽に参加できる教室にしました。35講座開催し、参加者はのべ108名でした。

【講座の流れ】

学校体育で行う、体つくり運動、陸上、球技の中からいろんなスポーツにチャレンジしました。

講座は2部構成として ① 体つくり運動（コーディネーショントレーニング、フィットネス、軽い筋力トレーニンなど）を実施。走跳投の基本動作を身につけたうえで ② 球技種目、ニュースポーツを行いました。

行った種目：バトミントン、バスケット、フライングディスク、ビンゴ、バレーボール、ユニホック、ダブルダッチ、スポーツ鬼ごっこ等

【参加者の声】

- あまり外に出て運動をしないので、久々に運動できて楽しかったです。
- ラダーができるとは思わなかったので、懐かしい気持ちで楽しくできました。
- 色々スポーツができてよかったです。特にスポーツ鬼ごっこが楽しかったです。
- いつも参加するのが楽しみ。スポーツだけでなく、コーチたちと話をするのも楽しい。

【保護者の声】

- ホームスクーラーは身体を動かす機会が少ないので、運動不足からの体調不良になりやすいです。このような気軽に楽しく参加できる運動プログラムはいい機会だと思いました。
- 「楽しかった！」と笑顔で帰ってきました。久しぶりに運動出来て良かったと思います。
- 毎回、行く前から親子で楽しみにしています。他のスポーツの習い事だと、他の子どもたちとどうしても、うまくできているかどうかを比較してしまい、のれてないなぁとか思ってしまって気が気ではなくなります。ぷらスポでは、講師の方や一緒に参加している子どもたちが優しく受け入れてくれているので、安心して見ていることができます。うまくなることや勝つことが目的になっていないので、楽しく運動ができるのでとてもいいです。

【担当者の声】

私は運動が得意ではありませんが、「体を動かすことはしてみたい」と思っていました。子ども達向けのスポーツ教室はたくさんありますが、そことは違う「運動が得意な子も苦手な子も気軽に参加できる教室を」と思い企画しました。講師が提案してくれた日常生活に『ぷらすスポーツを』＆『ぷらっと来れるスポット』とはまさにピッタリのテーマでした。

小学生から高校生の異年齢の子たちが一緒に同じプログラムを行いましたが、体力差を考えながらルールを決めたり、役割を変えたりするなど相手を思いやる姿に、体を動かすだけでなく人との関りも学べる講座になったと感じました。

2. 講座紹介

2.3 つくる

- ハンドメイド講座
- 工作ひろばつくるん
- 染め物体験
- 花育講座

ハンドメイド講座

講師	MOPPY（本山裕子）	
開催日	2021 年	6 月 13 日 10:00～11:30 「世界にたった 1 つの物作り」
		7 月 26 日 10:00～11:30 「世界にたった 1 つの物作り」
		8 月 2 日 10:00～11:30 「世界にたった 1 つの物作り」
		11 月 21 日 10:00～11:30 「世界にたった 1 つの物作り」
		12 月 5 日 13:30～15:00 「オリジナルクリスマスリースづくり」
	2022 年	3 月 13 日 10:00～11:30「世界にたった 1 つの物作り」
		6 月 26 日 10:00～11:30「世界にたった 1 つの物作り」
		7 月 24 日 10:00～11:30「世界にたった 1 つの物作り」
		8 月 25 日 10:00～11:30「世界にたった 1 つの物作り」
		会場：むすびつくば（全講座）

ハンドメイド講座 ～世界にたった1つの物作り～

【講座の内容】

ミシンと手縫い、好きなやり方で自分だけの作品を作り出す講座です。材料と道具が用意されているので、手ぶらでの参加も可能です。9講座開催し、参加者はのべ52名でした。

【講座の流れ】

事前に参加者がそれぞれ作りたいもの（ラップ付きミニバッグ、カフェエプロン、文庫本入れミニバッグ、ミニトートバッグ、お弁当袋、巾着、ばねロポーチ、マスク、ポケットティッシュケース、ヘアゴム、シュシュなど）を選んでおいてもらいました。当日は、こちらにあるたくさんの布の中から気に入ったものを選び、先生から作り方の説明を受けて、ミシンや手縫いで作品を作りました。

【参加者の声】

・イメージ通りの作品ができたこと、自分でできたことが良かった。
・上手に出来たことが嬉しかった。
・スタッフの人が丁寧に教えてくれたのが良かったです。その通りにしたら、上手に出来あがったので嬉しかったです。
・すぐに使えるものが作れたこと、一人一台ミシンが使えて、自分のペースでできたことがよかった。
・初めてのミシンで、真っ直ぐに縫えたのが嬉しかったです。
・ミシンの使い方を丁寧に教えてもらえたので、頑張れました。
・作りたい大きさのトートバッグができあがって、嬉しかったです。

物作りの様子

【保護者の声】

・夏休みに入ってむすびに行けないことを悲しんでいた娘が、このような楽しい講座があるとしってとても喜んでいました。子どもたちのために、かけがえのない場を作っていただき、感謝申し上げます。
・お友達に誘っていただき参加できました。弟がいて家ではゆっくり裁縫を教えられないので、年齢的にも良い機会でした。本人も楽しかったようで、すぐ祖母の誕生プレゼントに作成し、褒められ自信がついたようです。他の方にもこの講座を教えてあげたいです。
・さっそく、作ったバッグに本を入れて学校へ行きました。
・先生方が前向きになる言葉がけをしてくださり、作品を最後まで仕上げることができました。ありがとうございました。
・まだ低学年で集中力がなかなか続きませんが、先生方が優しく教えてくださったおかげで最後まで取り組むことができました。ありがとうございました。
・子どもには内容は難しめでしたが、丁寧に教えていただき、完成品に大変満足したようでした。また機会がありましたら是非参加したいです。
・自分でできた、という体験を積み重ね、少々の失敗も乗り越える力をつけていって欲しいと思っています。
・本当にかわいいハンドバッグを携えて戻ってきたので驚きました。娘も愛用しています。
・少人数だったので、低学年の娘も安心して取り組むことができました。

2021年12月オリジナルクリスマスリースづくり

できあがった作品

【担当者より】

手作りの楽しさを伝えたいと思って始めた手芸講座。初めてのミシンに悪戦苦闘しながらも、回を重ねるごとに上手になっていきました。好きな布で好きな小物を作り、笑顔で帰っていく姿を見て、こちらも嬉しくなりました。1人1台のミシンを使って自分のペースで作業ができたのもよかったです。

工作ひろばつくるん

講師	平石哲（むすびつくば絵画造形担当）・谷島弘恵（創作クラブつくるん主宰）	
開催日	2021 年	4 月 10 日 14:00～15:30「新聞紙でへんしん」@しもつま 会場：かふぇまる café&studio カフェスペース
		6 月 12 日 14:30～16:00「牛乳パックで流しガチャ」@しもつま 会場：かふぇまる café&studio カフェスペース
		6 月 26 日 15:30～17:00「牛乳パックで流しガチャ」@つくば 会場：むすびつくば
		7 月 24 日 14:00～15:30「ビー玉めいろ」@つくば 会場：むすびつくば
		10 月 24 日 14:00～15:30「ハロウィンランタンづくり」@しもつま 会場：めぐりあい広場たかさい
		12 月 11 日 10:00～11:30「ビックり松ぼっくりでクリスマスツリーを作ろう」@つくば 会場：むすびつくば
	2022 年	2 月 27 日 14:00～16:00「パステルで描いて・やぶって・くっつけて！」@しもつま 会場：めぐりあい広場たかさい
		3 月 27 日 10:00～11:30「樹脂ねんどでオリジナルマグネットを作ろう」@しもつま 会場：めぐりあい広場たかさい
		5 月 22 日 14:00～15:30「木に触れる"い木もの"づくり！」@しもつま 会場：めぐりあい広場たかさい
		6 月 25 日 10:00～12:00「ステンドグラス風アートに挑戦」@つくば 会場：むすびつくば
		7 月 26 日 9:00～11:00「古紙リサイクル紙すき体験」@しもつま 会場：めぐりあい広場たかさい
		7 月 28日 9:00～11:00「古紙リサイクル紙すき体験」@つくば 会場：むすびつくば
		9 月 25 日 14:00～15:30「雨の音で癒される楽器”レインスティック”をつくろう」@しもつま 会場：めぐりあい広場たかさい
		8 月 11 日 10:30～12:00「好きな色で編んでみて！ミニかごづくり」@しもつま 会場：めぐりあい広場たかさい ゲスト講師：クラフトバンド講師　冨田留美子
		11 月 27 日・12 月 4 日　14:00～15:30 「発泡スチロールでクリスマスオーナメントづくり」@しもつま 会場：めぐりあい広場たかさい

【講座の内容】

みんなで同じものを作るのではなく、上手になることを目的とするのでもなく、その子のひらめきやアイディアを活かせるテーマで制作を行う、自由度の高い工作講座です。

同じ制作テーマでつくば会場と下妻会場で受講できるように計画しました。15講座開催し、参加者はのべ48名でした。

ハロウィンランタンづくり

ストローでランタンを作りました。

円筒状にした内側にセロファンを貼って、好みの色にしたり、ストローの並べ方をランダムにしたり、いろいろな工夫をして、ひょうきんなハロウィンランタンができました。

牛乳パックで流しガチャ

ダンボールガチャと牛乳パックのスロープを組み合わせたコースと、カプセルに入れる小物を制作しました。何が出てくるのかお楽しみの「流しガチャ」。ドキドキ感と、自分が作ったものを誰かがもらってくれる楽しみが味わえました。

好きな色で編んでみて！ミニかごづくり

クラフトバンド講師の冨田先生をお呼びして、カゴを編みました。自分が選んだ色でできたカゴはそれぞれに表情があり、みんなできあがりに満足していました。

【参加者の声】

- ガチャガチャがもらえて嬉しかったそうです。
- ガチャガチャへのすべり台作りが楽しかった。
- 色々作れて楽しかったです。ハロウィンランタンは雰囲気が出ててかっこよかった。
- 発泡スチロールでオーナメントづくりは色々な形を作れてよかった。
- レインスティックは筒の長さによって、出る音が、違って面白かった。
- もし参加してなかったら人とも関わらなかったと思う。
- 編むことが楽しかったです。

古紙リサイクル紙すき体験

【保護者の声】

- 小学生低学年でも参加できる工作ワークショップをネットで検索し、子どもが参加を希望しました。
- 初参加でしたが、少人数でとても楽しく参加できよかったです。ありがとうございました。
- 本人は、あんな感じで静かに黙々とやっていましたが、とても楽しかったと大満足でしたので、参加できてよかったです！
- 工作つくるんでは、様々なものを作れるのがとてもよかったと思います。そして、集まって作ることで、自然と子ども同士の交流もでき、それぞれの個性を認め合える雰囲気があるのも、とてもよかったと思います。機会を作ってくださりありがとうございます。小さくてもこの活動が続けられると良いなと思います。

【担当者の声】

今や材料さえ自分で用意すれば、一般公開されている動画を見ながら作れてしまうものがほとんどです。工作も然りで、そんなご時世に、家で過ごす不登校と言われる子が、外に出向いて講座に参加するというのはハードルが高いことなのかもしれない、というのが工作講座を企画していて感じたことでした。「外に出向いてでもこれを作りたい！」そう思えるようなテーマを考え、ひねり出してきましたが、なかなか参加者増にはつながりませんでした。

一方で、めぐりあい広場たかさいで開催する工作講座には、毎回足を運んでくれる子が3名いました。みなさん作ることが好きで、ただ作るだけではなく、自分のアイディアを活かした制作をしていました。スタッフはそのアイディアをすかさず見つけて、「いいね！」「すごいね！」と声をかけます。また、講座の間、ほとんどの保護者は待機しているのですが、作品が完成したら保護者も集まり、みんなで作品鑑賞会になりました。その時に、自分の子だけでなく、他の子の作品の素敵なところを口にしてくれました。つまり、リアルな場では、子どもの承認欲求につながるような働きかけがたくさん起きていたのです。これは、「家で動画を見ながら作品作りをする」環境では得られないことではないでしょうか？

不登校といっても、その子が今どんな状態であるかによって対応は変わってきますが、もし、回復期にあり、本人が「外に出てもよい」というのであれば、このような場に参加してみることは社会復帰への一歩になるのではないかと思いました。

染め物体験

講師	染織工房ぷにの家 飯塚優子 https://www.puninoie.com/	
染め直しで環境アクション!藍染体験		
開催日	2022 年	第 1 回 持ち込みの生地を藍で染めよう 1 月 9 日 10:00～12:00 会場:ぷにの家
		第 2 回 伝統のある型紙を使って模様をつけよう 1 月 16 日 10:00～12:00 会場:ぷにの家
		第 1 回 持ち込みの生地を藍で染めよう 11 月 19 日 9:00～11:00 会場:ぷにの家
		第 2 回 伝統のある型紙を使って模様をつけよう 11月 26 日 9:00～11:00 会場:ぷにの家

染め直しで環境アクション!藍染体験

2022 年 1 月 9･16 日

【講座の流れ】

ただの藍染ではなく、使い古したものを藍で「染め直し」をします。

飯塚先生は、「使い古したものを染め直すことにより、日本の文化を取り入れた新しいものに生まれ変わらせることができる。これにより、新しものを買わずに済むからゴミをひとつ減らすことができる」と話されました。「染め直し」は私たち消費者がとれる環境アクションなのですね!

【体験講座の内容】

筑波山麓の自然豊かな工房での染色体験で、伝統文化を体感しながら環境アクションも起こせる内容です。

1日目は持参してもらった綿100%の布を藍で染め、2日目は染めたものに抜染という手法で柄をつける、というように2回に分けて実施しました。4講座開催し、参加者はのべ37名でした。

1日目～持ち込みの生地を藍で染めよう～

冬、まっただ中のこの時期。ぷにの家の庭には残雪があり、染液の表面も凍っていました。氷を取り出すと、日光に照らされてとても綺麗でしたが、冷たい染液に染物を浸す作業は、ちょっと厳しかったです(笑)

生地を染液に浸すと濃い青緑色になりました。しかし、引き上げて干していると、徐々に藍色に変化していきます。空気に触れることで、色が変化するそうです。色むらを防ぐため染液に浸して干す作業を3回くらい行い、水ですすいで脱水すれば一連の工程は終わり。最後は、みんなで集まり、感想を述べて終わりました。

2日目～伝統のある型紙を使って模様をつけよう～

「抜染」という手法で、前回染めた生地に模様をつけます。

最初に型紙について飯塚先生から説明がありました。今回使う型紙は、つくば市の北条地区にかつてあった染物工場が使っていた「型紙」で、柿渋を塗った和紙でできているそうです。古いものなので、破けていたり欠損があったりしますが、部分的に使えばよいので大切に残してあるそうです。この型紙を使って模様をつける本来のやり方があるのですが、その方法は技術力が必要なので、今回は色を抜く糊を使った「抜染」という方法で模様をつけていきます。

まず、布の上に、型紙を置いてその上から紫色の抜染糊を刷り込んで模様を布に転写します。型紙は和風の模様が多かったですが、モダンな模様や中華風の模様も少しありました。デザインが好きな人は、この型紙を眺めているだけでも楽しいでしょうね。

糊を刷り込む作業は、自然と親子で協力し合っていて、その姿に「素敵だね」と先生はおっしゃってました。

糊を塗った後は、型紙を外して乾燥させます。

乾いた色になってきたら、お湯で熱処理をします。すると･･･糊が取れて白い部分が現れました！

水洗いしたら出来あがりです！

【参加者の声】

- あいって色がきれいだった。
- 色が緑から青に変わっていくのが面白かった。
- いつもできない体験ができてよかった。
- 藍染めをやってみたかったので、体験することができてとても楽しかった。
- 自然の物とは思えないほどきれいで美しい色でした。また、和紙だけでここまで繊細な模様を作り出せるのは職人技だなと驚きました。

【保護者の声】

- 染め直しという機会はなかなかないので、ありがたかったです。気軽に藍染めってやれるかもしれない！と思えてよかったです！
- 以前から、子どもが藍染めに興味をもっていたので、体験することができてよかったです。また、焚き火の枝や葉っぱを集めたり、猫やヤギがいたり、ブランコで遊べたり、先生のお住まいが居心地がよく、とても楽しかったようです。

【担当者より】

染物というめずらしい体験が親子で（しかも協力しながら）できて、良い思い出になったのではないかと思います。染め直ししたＩ枚は、自分で手を加えたことで愛着のあるＩ枚に変化したのではないでしょうか？また、伝統のある型紙は、Ｉつの模様でも、子どもと大人でとらえ方がちがっていて、子どものとらえ方はとてもユニークでおもしろかったです。模様をつけるときは、子どもは即決で、大人の方がたくさん悩んでいました(笑)　子どもたちには、焚き木を集めたり、ハンモックで揺られたり、自然の中に遊べるものがあったのも楽しい要素のひとつだったようで、講座の内容だけでなく実施環境も大切なのだと実感しました。

花育講座

講師	AtelierTiare 中島幸子	
開催日	2022 年	4 月 3 日 14:00～15:00 「お花や植物で色とりどりなハーバリウム作り」 会場：めぐりあい広場たかさい
		7 月 3 日 14:00～15:00 「生花で夏の七夕アレンジメント」 会場：めぐりあい広場たかさい
		8 月 29 日 10:00～11:00 「ハッピーカラーのお花フレームづくり」 会場：むすびつくば
		9 月 4 日 14:00～15:00 「お花の素材でつくる海中アート」 会場：めぐりあい広場たかさい
		10 月 10 日 14:00～15:00「秋のハロウィンアレンジメント」 会場：めぐりあい広場たかさい
		12 月 27 日 14:00～15:00 冬のお花講座「お正月飾りを手作りしよう」 会場：めぐりあい広場たかさい

生花で夏の七夕アレンジメント

【講座の内容】

お花を通して子どもの個性と感性を愛でて育む「花育講座」

この回では、小さな七夕飾りと生花で「夏と七夕」を表現しました。花材はひまわりなど季節のお花、数種類から自由に選び、七夕飾りを作ったり、花瓶も工夫して、それぞれの発想やアイディアで創造力あふれる自由なアレンジを楽しみました。6講座開催し、参加者はのべ25名でした。

【講座の流れ】

簡単なゲームでアイスブレイクした後、今回用意したお花について講師が紹介。他の材料や道具について説明を受けた後、参加者は花瓶をデコレーションし、そこにお花を活けて、七夕飾りをかざって完成させました。

【参加者の声】

- フラワーベースも手作りできたのが楽しかったです。じっくりと時間をかけて取り組めたのでとても満足できる作品ができました。ありがとうございました！
- 笹を使った生け花がめずらしかった。笹の緑と水色の花で涼しげな作品ができたと思う。

【保護者の声】

- 会場の和室がとても落ち着ける雰囲気で、どの子もリラックスした様子でマイペースに取り組んでいました。素敵な空間と時間をありがとうございました。

【担当者より】

お花の華やかさや美しさで、心が安らいだり、豊かになったり、情操面に働きかける機会になれば、と思い開催しました。

自分のアイディアを活かして自由に制作できるので、子どもたちの発想に感心させられることが多かったです。また、できあがりを見た保護者が「素敵！」と声をあげると、子どもの表情が誇らしげで、このような創作活動は子どもの自信につながると感じました。

2. 講座紹介

2.4 コラボ

- 古民家再生プロジェクト
- 耕作放棄地をお花畑にして地球を黄色く染めようプロジェクト
- 新聞 × 中高生 in つくば・しもつま

古民家再生プロジェクト

講師	NPO 法人華の幹 飯塚洋子 https://www.facebook.com/oda.hananoki/	
開催日	2021 年	第1回 五右衛門風呂撤去・土塀再生の土作り 10月9日・10 日 9:00～11:00 会場：古民家「華の幹」
		第2回 壁補修材塗り・土塗り 10 月 23 日・24日 9:00～11:00 会場：古民家「華の幹」
		第3回 漆喰塗り 11 月6日・7 日 9:00～11:00 会場：古民家「華の幹」
		第4回 床面のコンクリート塗り 11 月20日・21 日 9:00～11:00 会場：古民家「華の幹」

100 年越えの古い土塀を再生しよう

【体験講座の内容】

古民家の”土塀（どべい）”再生にチャレンジします。土塀は、粘土質の土と石灰や藁などの天然素材だけで作られた伝統的な塀です。土づくり（藁切、土こね、土踏み）から始まり、パテ塗り、土塗りをして、最後に漆喰を塗って完成。という一連の作業を体験するプログラムです。2日ずつ4講座開催、参加者はのべ40名でした。

第1回 五右衛門風呂撤去・土塀再生の土作り

初回の作業は、壁に設置されていた五右衛門風呂をとんかちやつるはしなどを使って撤去することから始まりました。大変な仕事でしたが、何とか時間内に終わらせることができました。

2日目は、土作りです。他の古民家で屋根瓦の固定のために使われていた土の塊を、トンカチで粉々にして、3～4cmくらいの大きさにカットした藁とともに水を加えて練りました。かなり足腰に来る作業でした。

第2回 壁補修材塗り・土塗り

壁の補修と土塗りをしました。度重なる地震で割れてしまった場所、長年の劣化で、浮いてしまった土塀の基礎部分にレンガの土台を入れて、固定、穴が開いた土塀の部分に土を塗りこみ、穴、亀裂を補修、定着液で固定などの作業を行いました。

見た目よりずっと難しい作業でしたが、参加した中高生はすぐにコツをつかんで、華の幹のスタッフさんから「スカウトしたい」と言っていただくほどでした。

第3回 漆喰塗り

いよいよ漆喰塗りです。漆喰を練るのも、意外と力がいるので大変です。小手に漆喰を乗せ、下から上に漆喰を壁に強く押し付けるように塗りつけていきます。

角度があり過ぎると土をえぐってしまうし、平らすぎると壁を傷付けてしまうという感じで難しい作業でしたが、真っ黒い空間が 一気に明るくなりました。

第4回 床面のコンクリート塗り

最終回は土間にコンクリートを敷きました。まずは地面を整え、コンクリートを定着させるための金網を敷いていきました。コンクリートは水を混ぜるところから始めました。やってみるとこれも意外と大変でしたが、交代しながら取り組みました。

同時並行で、壁にする蔵の戸の掃除と防水防虫ペンキ塗りもしました。相当古いものでしたが、扉の重厚さにみんな驚いていました。

【参加者の声】

- 五右衛門風呂を見たのは初めてでした。他の古民家で使われていた土を再利用したり、自然にあるものを生かしているのが良いと思いました。
- 漆喰塗りでは、満足のいく出来に仕上げることが出来て嬉しかった。
- 古民家や土塀に関する知識が増えたので、古い建物を見るときの視点が増えた。
- 華の幹の人たちの雰囲気がとてもよかった。

【保護者の声】

- 戦国時代から残る土塀も見学し、実際に作業していることもあって身につく知識となったようでした。収蔵されていた農機具や鞍、番傘、炭のストーブなどを実際に見ることができました。
- 五右衛門釜の錆びた鉄の部分が落ちていたので拾い、大切に持ち帰りました。落ちていた古新聞の記事から時期を検索したところ、第二次世界大戦 1940 年頃のものと分かりました。
- 丁寧に教えてくださったその上で、子ども達にのびのびと作業させてくださっていました。心から褒めてくださっているのがこちらにも伝わりました。終了後に華の幹のスタッフさんから、シュロの葉でバッタやカタツムリの作り方を教えてもらったのも楽しかったようです。

【担当者より】

当初は夏休みから秋にかけて計画したプロジェクトでしたが、コロナ禍のため大幅に予定を遅らせての実施となりました。以下は、NPO 法人 華の幹 飯塚さんからいただいたメッセージです。

このような作業は、人と人とがコミュニケーションをとりながらでないとうまく進みません。今回は、新たに参加される方たちに出来るだけその楽しさや難しさが伝わるように注意しました。職人さんがやるような美しく正しくきれいな出来上がりより、自分たちでやり切ったという達成感を、多少歪みがあっても、他の人と協力しやり切ったこと自体に価値を感じてほしいとこの企画に向き合いました。

また私たちは古民家再生保存維持の活動を主幹としている団体ですので、休憩時間には、この古い土塀空間がある古民家に関するおもしろ話や古い道具を見て頂いたり、自然にあるもので物を作り出す簡単な葉っぱ細工などでも遊びながら体験してもらいました。

耕作放棄地をお花畑にして地球を黄色く染めようプロジェクト

講師	染織工房ぷにの家 飯塚優子 https://www.puninoie.com/	
開催日	2022 年	第1回マリーゴールドの苗を植えよう 6 月 19 日 10:00 ～ 12:30 6 月 22 日 13:30 ～ 15:00 会場：ぷにの家
		第 2 回 お花畑の草取り&マーブリング染め（扇子） 7 月 18 日 8:00～10:30 会場：ぷにの家
		第 3 回 お花畑の草取り&マーブリング染め（コースター） 8 月 27 日 8:00～10:30 会場：ぷにの家
		第 4 回 お花畑を空から見てみよう～ドローンで撮影&お花つみ会～ 9 月 19 日 9:00～11:00 会場：ぷにの家
		第 5 回 お花つみ&マリーゴールド染め 10 月 2 日(日) 10:00～14:00 会場：ぷにの家

【プロジェクトの内容】

このプロジェクトでは、染料となるマリーゴールドを育てるところから始め、染色体験につなげるためのプログラムを用意しました。染物という伝統技能と社会課題解決へのアクションがテーマです。

「地球を染めよう」というキーワードは、とても広い耕作放棄地をマリーゴールドのお花畑にして、その畑を上空から見たら・・・。地球（の一部）が黄色く染まっているように見えるのではないか？という講師の発想から生まれました。プログラムは6回開催し、参加者はのべ51名でした。

第 1 回マリーゴールドの苗を植えよう

マリーゴールドの苗を畑に植え付けました。「大きく育ってね」「根付いてくれよぉ！」そんな想いを込めながら植えて、お水をあげました。

2回目の苗植えの時は、前回植えた苗がぽっきり折れてしおれていたり、だめになってしまったものが多く、また新たな苗を植えなおしました。

畑の作業は大人と子どもが混ざりあい、年上の子が初対面の小さな子をサポートする姿が見られてほほえましかったです。

作業の後は、食べ物を囲んで「だんらんタイム」を設けました。参加者で交流できる場となり、楽しい時間となりました。

第2回・3回 お花畑の草取り&マーブリング染め

第2回、3回は、畑のメンテナンスという意味で草取りと植え替えを、染物の体験では「マーブリング」を実施しました。

第2回は、草取りと苗の植え替えをやりました。みなさん、黙々とやっていました。

マーブリング（水面にインクを落とし、自然にできたマーブル模様を紙に写しとる技法）は、初めての子でもやり始めたらすぐにコツをつかんで、上手に模様を作り出していました。何度も練習して、慣れてきたら最後は作品作り。扇子に模様を写し取れば、自分だけのオリジナル扇子ができあがりました。

第3回の時にはマリーゴールドが大きく育っていました。大人は畑のお手入れをし、子どもたちはお花摘みをしました。男の子はカエルなどの生き物探しもしていました。また、お花を摘んでいるうちに誰がたくさん摘めるか競争になっていました。結果、たくさんのお花が摘めました。摘んだお花は飯塚先生が乾燥させて染料にするそうです。

そして、後半はマーブリングをやりました。先生がお手本を見せてくれたのですが、落としたインクがふわーっと広がる様子に歓声があがりました。やり始めたらみんな止まらない。シンプルですが、夢中になれるマーブリング体験でした。

実は、第3回はドローンで撮影の予定だったのですが、マリーゴールドの生育状況がよくなかったので9月の第4回に延期したのです。この夏も暑さが続き、水やりが間に合わず干からびてしまった株もありました。天候によって植物の育成状況が変わってくるので、計画変更せざるを得ないことが何度かあり、自然の威厳と農業の難しさを実感しました。

第 4 回 お花畑を空から見てみよう

上空から見たマリーゴールド畑

いよいよドローンによる撮影の日です。この時は、台風14号が迫ってきていて、開催できるかどうか前日から天気予報とにらめっこ。なんとか天気が持ちそうだったので、開催を決定したところ・・・当日の午前中は見事に晴れ!!風の影響もなく、無事にドローンが飛ばせました。

お花畑では、お花を摘んだり、写真を撮ったり。時々みんなで集まっては、ドローンに動画を撮ってもらったりと、珍しい経験ができました。

ブーケづくりでは、 フローリストlilly先生の指導により、摘んできたお花でブーケを作りました。小さなかわいいブーケから、プレゼントにピッタリのすてきなブーケができあがりました。

ドローン撮影の動画は左の QR コードからご覧になれます。

第５回 お花つみ&マリーゴールド染め

このプロジェクトの最終回です。

まず、お花畑に行ってお花摘みをしました。子どもたちでたくさんのお花を摘んでくれました。黄色とオレンジ色のビタミンカラーは見るだけで元気になります。そして、お湯のわいた大きな鍋にお花をみんなで投入！ 煮出して染液にしました。

染色の工程は「染液に浸す→媒染に浸す→染液に浸す」をそれぞれ15分ずつ行います。木綿のハンカチを染めたのですが、最初に浸した段階で鮮やかでとてもきれいな山吹色に染まりました。

待っている間に、黄色とオレンジ色のお花では染めあがりの色は違うのか？という実験もさせてくれました。

染色は、様々な条件によって色の出方が変わってくるので染めてみないとわからない部分があるそうです。そう考えると、自然物での染物はOnly Oneなものができあがりますね。

最後は、羽釜で炊いたごはんをおにぎりにしてみんなで食べました。普段少食な子がおかわりするくらい食べていて、保護者の方が驚いていました。自然の中で遊んだり、身体を動かしたのでおいしく食べられたのかもしれません。

【参加者の声】

- お花をみんなで植えたりしたのが楽しかったです
- 言葉をかけてくれたりしてくれて嬉しかったです

【保護者の声】

- 普段できない体験ができましたし、ぷにの家に居るヤギや猫達がとても可愛く子どもも夢中でした。
- 年齢問わず、初対面の人同士で楽しく集まれる場というのがこのご時世、貴重な場だと思います。皆さん暖かい雰囲気で迎えてくださり、嬉しかったです。また、3歳の娘を連れていきましたが、大人や小学生の子に娘の相手をしてもらえるのがありがたかったです！娘もとても楽しんでいたようです。
- 貴重な体験ができ、自然などに触れることができて親子でとても楽しかったです！
- 自然に触れあうことが大好きで、今回参加できて 本当に素敵な体験をさせていただきました。 嬉しかったです。スタッフの方々は親身に優しく言葉かけてくれたり、話を聞いてくださり本当に嬉しかったです。 ありがとうございました。

【担当者より】

マリーゴールドといえば、花壇やプランターによく植えられていて、育てやすい花というイメージでした。しかし、耕作放棄地だった畑に植えてみると、苗が小さすぎてうまく根付かなかったり、根切り虫にやられて枯れてしまったりして、なかなか思うように育たず、とても苦労しました（植えた苗は全部で4千本にもなったそうです）。畑一面マリーゴールドは実現できませんでしたが、大人たちは知恵を絞って、なんとか半分くらいはお花畑にすることができました。今思えば、この大変だった経験を参加の子どもたちに伝えればよかったです。

このプロジェクトでは、染物はもちろん、ドローンを近くで見ることができたり、焚火でお花を煮出したり、ハンモックで揺られたり。日常ではやらないことがたくさんできたのではないかと思います。

また、近所のおじさまが突然現れて、農作物を差し入れしてくれるといううれしいハプニングも地域ならではのことで、最後に一緒におにぎりを食べる時間は参加者同士の交流の場にもなり、このようなことを継続していけばサードプレイスになるのではないかと思いました。

新聞 x 中高生 in つくば・しもつま

協力	NPO 法人華の幹 / NPO 団体 Lens / 茨城新聞社 NIE 事務局	
開催日	2022 年	2 月 19 日 14:00～16:30 会場：古民家華の幹
		5月3日 14:00～16:30 会場：Waiwai ドームしもつま：地域交流センター
		8月 21 日 14:00～16:30 会場：高道祖(たかさい)市民センター
		10 月 16 日 14:00～16:30 会場：高道祖市民センター
		12 月 18 日 14:00～16:30 会場：高道祖市民センター
	2023 年	3 月 19 日 14:00～16:30 会場：高道祖市民センター

【講座の内容】

地域の話題など、中高生が一人一人の興味や関心にそったニュースにふれ、現代社会の課題について、気軽に語り合おうという講座です。6講座開催し、参加者はのべ37名でした。

【講座の流れ】

チェック・イン（15分）→新聞記事切り抜き（30分）→模造紙に貼り付け（15分）→記事についてフリートーク（1時間）→チェックアウト（30分）

初回の会場には「古民家再生プロジェクト」でもお世話になった「華の幹」をお借りし、進行もお任せしました。

まずは1週間分の茨城新聞を読んで、各自が気になった新聞記事を切り抜き、ジャンルごとにまとめて模造紙に貼り付け、記事を選んだ理由や感じたことなどを共有しました。

第2回以降は、会場を下妻に移して、進行も下妻第一高等学校を卒業したばかりの大学生が立ち上げた NPO団体Lensのみなさんにお願いしました。

進行は、気になった記事を切り抜き、ジャンルごとにまとめて模造紙に貼り付け、その記事を選んだ理由などをシェアする、と基本と変わりはありませんが、ペアやグループ、または全員で輪になって話すなどその時の様子によって工夫をしました。参加した中高校生からは、「年齢が近くて話しやすかった」という声とともに、「大学生と話せてうれしかった」という声もありました。

各回とも話題は政治、経済や不登校、部活動改革、ジェンダーギャップ、地域の農業の現状など多岐に及んでいました。

【参加者の声】

- 高校生や大学生と話ができたのも楽しかった。捉え方や、考え方の幅が広がった。
- 普段、友達とはしないような話ができるということが新鮮だった。
- 新聞記事には、みんなあまり関心がない。身近な人と意見が対立したらいやだなとも思うので、話しにくいところもある。（全体としては少数派かもしれないけど、）同じ雰囲気をもった仲間と一緒に過ごせる時間を持てたのが良かった。
- 一人で新聞を読み始めることは、ハードルが高かったと思う。SNSでは得ることのできない情報を楽しく知ることができてよかった。
- 新聞は普段から読むけれど、新聞の内容について話し合う機会はなかった。自分の視点を変えることで、ニュースを客観視することのできる良い経験になった。

【保護者の声】

- コミュニケーションが得意な方ではないので、こんなに話しているのを見て驚きました。意見を聞いてもらえたことがうれしかったのだと思います。
- 次々素と晴らしい考えや意見が飛び出し、正直感動しました。日本もまだまだ捨てたもんじゃない。茨城もまだまだ未来に夢があると思いました。

【担当者より】

この講座の目的の１つは、中高校生に、自分たちが暮らす地域から広く社会に目を向ける機会をもってもらうことでした。参加者の中には「じっくり新聞を読んだのは初めて」という中高校生もいましたが、「読んでみたら意外と面白い」など、参加者からは「楽しかった」といった前向きな感想をたくさんいただきました。一方で、新聞を定期購読していないという家庭も多く、「関心があっても、自分でお金を出して買おうとまでは思わない」という声もありました。

今回の講座には、茨城新聞社 NIE 事務局にも協力いただきました。担当の澤畑さんからは「複数社の新聞を読み比べてみては」とも提案いただきましたが、Lens の皆さんの「地域の話題を大切にしたい」という意向もあって「茨城新聞を１週間分読む」という方法を採りました。

Lens の飯塚さんからは、「中学生、高校生など様々な世代の人と話せて面白かった。若者が身の回りで起きていることについて話し合うことは大切だと思う。社会の一員として、より良い社会になるためにはどうすればいいのかを考えるきっかけにしてもらえたらうれしい」とのコメントもいただきました。

2. 講座紹介

2.5 その他

- むすび場しもつまSummer Meet-up
  オンライン
- その他
  むすび場落語会・オンライン料理教室・
  折り紙ワークショップなど
- 広報イベント

むすび場しもつまSummer Meet-up オンライン

「むすび場しもつま夏の発表会」

開催日	2021 年 8 月 28 日(土)10:00～16:00
	10:00～11:10 折り紙ワークショップ（親子でかんたん編） 講師：谷島弘恵 参加者：3 名
	11:45～12:00 クラシックギターミニ発表会 講師：榎森保夫 発表者：4 名
	13:30～14:00 ジャンベ教室 講師：ファイ・シーディ 参加者：7 名
	14:30～16:00 オノムの英語教室（基本・発展） 講師：小野村哲 参加者：13 名

【開催の目的】

むすび場しもつまで開催しているギター体験会に継続してきている子の、発表の場を設ける。また、緊急事態宣言等で出かけることができないためオンラインイベントにし、夏休みの最後の思い出づくりや、太鼓をたたいてストレス解消できるように企画しました。

【折り紙ワークショップ】

この夏の思い出に、「折り紙で作る夏のリース」ということで、リースの土台とひまわりと葉っぱを作りました。

参加の子たちは、講師の説明と手元カメラを見ながら折っていきました。

オンラインなので、分からないところを手取り足取り教えてあげることができません。そんなときは、分かりやすい表現で説明しながら折り方を見せ、それでも分からないときはそばにいるお母さんに手伝ってもらいました。（ご協力ありがとうございました）

夏といえば？参加のみなさんは何を折ってリースを完成させたのでしょうか？

【クラシックギターミニ発表会】

4月から月に一度開催してきた「クラシックギター体験会」。毎回参加してくれる子たちが2曲くらい弾けるようになったので、ミニ発表会を開きました。ミニ発表会は、むすび場でも初めての限定ライブ配信でした。

演奏者のみなさんは、堂々とステージにあがり、上手にギターを奏でていました。講師の榎森先生は、「根強く少しずつ前向きにやっていれば、必ずいい結果が得られる。自分のこれからの人生で『やれた』というのは自信につながる。これはすごく大切なこと」とおっしゃっていました。この「できた」がみなさんの自信につながっていることを信じています。

【ジャンベ教室「アフリカのリズムにのせて、ストレスを吹き飛ばそう！」

シーディさんのとてもカッコいいジャンベ演奏から始まりました。大人はノリノリでしたが子どもたちはどうだったかな？

演奏の次はセネガルクイズ。日本の習慣との違いからセネガルの文化を楽しく知ることができました。

残りの時間は、シーディさんと一緒に２種類のリズムを叩きました。どちらも簡単なリズム♪なのですが、シーディさんが叩くと、ダンボール箱でも、バケツでも、ステキなリズムになりました。

参加した子ども達からは、「ジャンベのたたく箇所を変えると音がかわり、面白かった。」「もっと色々なリズムをたたきたかった。」「リズムが細かくて、楽しかった。」「太鼓が欲しくなった。本物もたたいてみたい。」という感想をいただきました。今回は、日本に居ながらにして、アフリカを感じることができたのではないかと思います。

【オノムの英語教室　基本編・発展編】

「単語が覚えられない！ 読めない！ 書けない！」という人へ、英単語を読んだり、書いたりするときのポイントを5つ教えてくれました。

Twitterでこの教室があることを知り、海外から参加してくださった方もいました。参加した方からは、「スペルを書くときに枠を付けることに興味を持ちました」「大変勉強になりました。高学年でも4線ノートを使うのは視覚的記憶の苦手なお子さんには良いと感じました。」「学校の宿題で一つの単語につき10回も20回も書かされてもただの作業になっているお子さんたちにとってたくさんのヒントをいただきました。」という感想をいただきました。

【企画担当者より】

新型コロナによる国の緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置などにより、対面で開催予定の講座がどんどん中止や延期になりました。そんな中でもオンラインであれば中止や延期にならず開催できるだろうということで、オンラインイベントにチャレンジしました。

クラシックギターのミニ発表会は、元々、榎森先生が「発表会に招待するから出ましょう」と言ってくれていたので、それならば、夏休みに一度、小さく発表の場を設けるのはどうかと提案させていただいたところ、承諾をいただいたので開催に至りました。

このイベントは、榎森先生のギター教室や、会場提供のまちづくり市民グループしもつま3高、講師のみなさま、むすび場つくばチームのみなさんのご協力を頂いて開催することができました。ありがとうございました。

その他

開催日	2021 年	9月18日 10:30～11:30「折り紙ワークショップ～マニアック編～」 講師：稲葉昌弘 会場：オンライン 参加者：4名
		9月25日 14:00～15:00「むすび場落語会」 講師：川崎賢一（落語家） 会場：オンライン 参加者：11名
	2022 年	2月26日14:00～16:00「おりがみを楽しもう！むすび場おりがみカフェ」 会場：むすびつくば 参加者：2名
		3月26日 13:00～15:00「一生使える！おだしをとってみよう～旬野菜のみそ汁・おむすび～」 講師：菊地裕子（料理家/プロデューサー） 会場：オンライン 参加者：2名

【むすび場落語会】

聴いて楽しい見て楽しい、ホントは自分でやるのが一番楽しい落語。緊急事態宣言下でも楽しい時間をとオンラインで開催しました。
緋毛氈とめくりで即席高座を用意し、出囃子で講師が登場。軽快な語り口で「落語とは？」から始まり、10～15分程度の楽しい古典落語を3つお話いただきました。

参加者からは「本物の落語を聞くことはちょっとハードルが高かったので、zoom で気軽に参加できとても良かった」「「笑う」ということが人間が生きていくためにどれだけ大切なことなのか、ということを改めて痛感しました。」などの声をいただきました。

【折り紙ワークショップ～マニアック編～】

めざせ！ほんもののバラの花！ということで、ねじり折りをはじめ、特殊な折りが含まれるバラの花をみんなで折りました。

ワークショップには 4 名の折り紙マスターが集まりました。折り方を画面越しに説明するので、先生は分かりやすい説明を心がけていましたが、立体に折っていくところはさすがに難しく、対面だったら直接教えてあげられるのに。。。とても歯がゆかったです。オンラインで教えるのは難しいジャンルだということが分かりました。

【おりがみを楽しもう！むすび場おりがみカフェ】

みんなでおりがみを楽しむ時間。自分が折りたいと思ったものを折っていいし、難しいおりがみに挑戦してもいい。スタッフと一緒に折ったり、分からない所は折り紙マスターやスタッフに教えてもらったり。とにかく、おりがみを楽しもう！というスタンスで開催しました。

おりがみ講座の講師、稲葉先生にも来ていただいたので、難易度の高いおりがみもOK！参加してくれたおりがみマスターは難易度の高い恐竜を2時間かけて折り、完成させることができました！おりがみ女子は、ひなまつりも近いので、華やかなひなまつりのリースを作りました。

【一生使える！おだしをとってみよう～旬野菜のみそ汁・おむすび～】

ドリップを使ってかつおぶしのおだしをとり、旬の野菜を使ったお味噌汁を作りました。

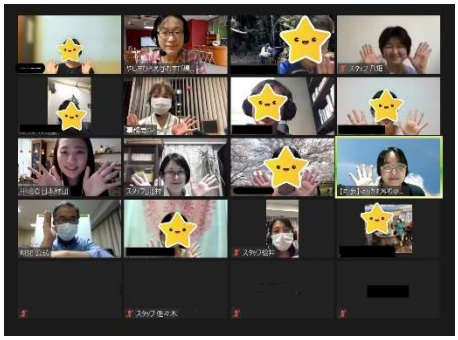
Zoom を使って、自宅キッチンからの調理！なんて新鮮！それぞれできあがったお味噌汁＆おにぎりを画面越しに見せ合い、ゆっくりおしゃべりをしながらおいしくいただきました。

広報イベント

この事業では、当初はいわゆる「不登校」または「隠れ不登校」などといわれる状態にある子どもたちを対象に考えていましたが、コロナ禍で大きなイベントの開催が不可となったこと、さらに「事業の趣旨を理解してもらう必要がある」「オンラインで情報が届けられるのか？」「リヴォルヴ学校教育研究所を知ってもらう」ということから実施しました。

【不登校：もうひとつの学びと育ちの場　～ライズ学園＋むすびつくばの 21 年～　】

日時：2021年5月21日　20:00～21:30
形式：オンライン
協力：みんなの社会力を育む会☆めぐりあい／社会につながる創作クラブつくるん♪
※アーカイブ動画を右記QRコードのURLで閲覧可能



リヴォルヴ学校教育研究所が2000年から行っている活動の中で、大切にしていること、子どもたちに教えられたことなどを、具体的なケースを通して紹介しました。後半は、多様なニーズをもつ子どもたちの「学びと育ちの支援」についてグループに分かれて意見交換を行いました。

参加者からは「ぜひ今後も継続、発展させていってほしい」「地域に住む一住人として、力になりたいと思う」「学校教育にむすびつくばのエッセンスが取り入れられることを願う」などの声が寄せられました。参加件数は39件でした。

【不登校　学びと育ちを支えるために】

日時：2021年8月1日　14:00～16:00
形式：オンライン
後援：つくば子どもと教育相談センター／ 不登校・多様な学びネットワーク茨城
協力：つくば市民大学／社会につながる創作クラブつくるん♪／ “こどものミカタ”養成講座実行委員会／
　　みんなの社会力を育む会☆めぐりあい

第1部では、不登校を経験した高校生と大学生、保護者、カウンセラーが不登校についてパネルディスカッション形式で話し合いました。また、茨城県やつくば市の不登校の状況や不登校を取り巻く環境の変化、当団体での実践について紹介しました。第2部では、グループに分かれてテーマに沿って意見を交換し、グループ間で共有しました。

イベントには、つくば市長や教育長、つくば市議も複数参加し、「多くの団体が連携してこのイベントを実現されたこと、様々な立場にある方々で話し合えたことが良かった」「不登校を経験した子たちが語る言葉にはハッとさせられ」「不登校児が増加している現状など話がわかりやすかったし、参加している方たちの熱量を感じた」などの声が寄せられました。参加件数は 71 件でした。

【工作ひろばつくるん出張講座～はり絵でお化け～】

日時：2022年10月15日　10:30～16:00
会場：つくば市立桜総合体育館

「不登校・多様な学びネットワーク茨城」が主催した「つながる縁日」に1ブース出展し、「工作ひろばつくるん～貼り絵でおばけ～」のワークショップを行いました。14名の子どもたちが参加しました。

また、主催者発表によれば、会には475名の参加があり、むすび場ではチラシを配布するなど広報にも努めました。

３.まとめ

事業の振り返り

予想を超えた新型コロナウイルスの感染拡大もあって、事業は冒頭から予定変更を余儀なくされました。助成期間は1年間の延長を認められ申込者数が定員を超えるような講座も出てきましたが、直前に外出自粛が求められるなどしてキャンセルが続出したり、講師が自宅待機になるなどして延期や中止になった講座もありました。「参加したが、まだ少し心配」「友だちに紹介したいが、気がひける」といった声は最後まで聞かれました。

日本財団の助成事業としての「むすび場:地域文化スポーツクラブ事業」は、2023年3月をもって一区切りとなります。課題も残した本事業ですが、改めて今、得ることも多かったと感じています。講座に参加した子どもたちや保護者の皆さんからは高評価をいただいており、私たちは今後もできる範囲で事業を継続する所存です。そこで以下に、講座への参加者とスタッフの声をもとに「Keep:今後も大切にしたいこと」と「Try:改善を図りたいこと」を整理し、以降につなげたいと思います。

〈Keep:今後も大切にしたいこと〉

1 ゆとり、安心

講座を評価する上で、子どもたちや保護者の皆さんにとってもっとも大切なファクターの1つとしてあげられていたのが、「ゆとり」とそこからもたらされる「安心」でした。「ハンドメイド講座」では「少人数だったので、安心して取り組むことができた」とあった他、「会場は混雑せず、ゆったりと受講できたのがよかった」という声が寄せられていました。事業者としては目標人数に及ばないことを懸念していたところですが、スタッフの振り返りでは「子どもたちにとって初めて踏み入れる場であることを思えば、ちょうどよい規模感だったのではないか」という見方も出ていました。

「工作ひろばつくるん」では「(みんなで同じものを作るのではなく、)様々なものを作れるのがとてもよかった。自然と子ども同士の交流もでき、それぞれの個性を認め合える雰囲気があるのも、とてもよかった」とありました。「えんげき部」では参加者同士で、「次回、何やろうか」と話し合ったことなど、「そういう、ゆるさがよい」という振り返りもありました。

「ぷらすスポーツ」「ぷらっと来れるスポット」をテーマにしたスポーツ教室「ぷらスポ」では、「講師の方や一緒に参加している子どもたちが優しく受け入れてくれているので、安心して見ていることができます。うまくなることや勝つことが目的になっていないので、楽しく運動ができるのでとてもいいです」といった感想も上がっていました。その他、ほとんどの講座で「スタッフが特性を理解してくれているので安心」「親身に言葉をかけてくれたり、話を聞いてくれたりしたのが本当に嬉しかった」など、講師やスタッフの寄り添う姿勢が評価されていました。

2 本物にふれる

もう一つ大切なファクターとして聞こえてきたのが、「本物にふれる」ということでした。「それぞれの夢中に飛び込む ごきげん農業プログラム2022〜お米体験コース〜」では、炊いた米しか見たことがなかったという子のアンケートに「コメが、かたかった」と書かれていました。担当者は「子どもたちの表情が、

こんなに違うのかなって思うぐらい和らいでいったんです。土にふれることがどれだけ大事かって、あらためて思いました」と言い、さらに「手作業で脱穀していると、お米が一粒こぼれても『もったいない』って拾っているんです。大人は特に何も言わなくても、お昼ご飯も、みんな一粒も残さず食べていました」と、興奮気味に報告していました。

「演劇部：平家物語を読もう」の中では、琵琶奏者さんが目の前で平家物語を弾き語ってくださったときの感動の声が、同じく「アフリカ太鼓教室：ジャンベでトントン」でも「本物のジャンベの響きを体で感じられた」といった声が寄せられていました。イラスト講座では、地域で活躍するプロのイラストレーターの仕事ぶりに接したことで、「地元にいても、こういう仕事ができるんだと改めて知り、職業を身近に感じられる機会となった」とも報告されていました。

3 学びの環境を大切にする

私たちの教室にやってくる子の中には、虫や植物などに高い関心を示す子が多くいます。これまでも顕微鏡を活用してきましたが、数人に一台では「じっくり観察」ということはできませんでした。「理科講座：Dr.みっけの見っけ」では、子どもたちから「一人一台の顕微鏡で、自分のペースでじっくりできたのがよかった」といった感想が寄せられていました。保護者からは「わが子が自分からすすんで取り組む、初対面の人と話すなど積極的に対応しているのを初めて見たような気がします」との回答もありました。精度の高い本格的な顕微鏡にふれたことが、もともと高い、けれど埋もれがちになっていた子どもたちの関心や意欲をさらに高めていたようです。

担当スタッフは「落ち着きのない子ですと伝えられていた子が、90分間、ずっと顕微鏡を見ているんです。落ち着きがないって、どういうことだろう。好きなことではみんな集中するんだなと、強く思いました」と、報告しています。

「染め直しで環境アクション！藍染体験」「耕作放棄地をお花畑にして地球を黄色く染めようプロジェクト」では、「自然の物とは思えないほど美しい色」など染色そのものを楽しむ声とともに、「焚き火の枝や葉っぱを集めたり、ブランコで遊べたり、『ぷにの家』の居心地がよかった」など、自然の中での体験に魅力を感じた参加者も多かったようです。その他の講座でも、「この子が生き生きしているのを見たのは久しぶり」といった声が聞こえました。

4 〇〇好きが集う・興味が広がる

「蓼（たで）食う虫も好き好き」と言いますが、「土の中の小さな生きもの」といわれても多くの人はあまり興味をひかれないに違いありません。しかし理科講座の中では、夢中になって顕微鏡をのぞきこむ姿が見られました。参加者を集めるためには、「もう少し一般受けする講座を設けてはどうか」と話し合ったこともありました。しかし今回、私たちは、通常の学校では体験できないようなニッチな学びの機会を設け、多様なニーズに応えることにこだわりました。

「新聞 × 中高生inつくば・しもつま」では、「新聞記事には、みんなあまり関心がない。身近な人と意見が対立したらいやなので、話しにくいところもある。同じ雰囲気をもった仲間と一緒に過ごせたのが良かった。」「普段、友だちとはしないような話ができたことが新鮮だった」といった感想も寄せられていました。

1つの講座に出たことがきっかけで、「本人が野鳥観察も行きたいと参加しました」というように興味を広げていく様子も見られました。外出を嫌がるようになっていた子が少しずつ場になれ、「何でも挑戦してみようと思った」と言って「ハンドメイド講座」や「つくるん」にも参加し、わずかの間に「別人のように、前向きになっていた」という報告もされていました。スポーツ教室「ぷらスポ」は、あまり運動は好きではないという子をおもな対象としていましたが、「ホームスクーラーは身体を動かす機会が少ないので、運動不足になりやすいです。気軽に楽しく参加できる運動プログラムはいい機会」「比べられることも、比べてしまうこともなくてよかった」といった声が聞かれました。

5 異世代交流：多様な個性にふれる

子ども同士のふれあいが大切なことは言うまでもありませんが、いじめなどの体験から同じ年頃の子とのコミュニケーションを苦手とする子がいます。子どもたちにとっても、異なる世代がともに暮らす中で多様な個性にふれながら育つ環境こそ、自然であったはずです。むしろ学校という環境は、同年齢の子どもたちを教室に押し込み地域社会から切り離してしまうという点で不自然であるとも考えられます。もちろん学校には学校の利点があり、ここでもその存在を否定するものではありませんが、私たちは常識という固定観念の中で「学校」が万能だと錯覚してはいないでしょうか。

「古民家再生プロジェクト」に参加した中高生は、見た目以上の重労働にも黙々と取り組んでいました。まさに「好きこそものの上手なれ」ということか、初めて手にしたコテの扱いなども古民家の再生と保存に取り組む皆さんから「スカウトしたい」と言っていただくほどの腕前を見せていました。休憩時間には、作業中に見つけた第二次世界大戦前後の新聞記事を読んだり、講師の皆さんから古民家に関する話を伺ったりもしていました。作業終了後に、「シュロの葉でバッタやカタツムリの作り方を教えてもらったのも楽しかった」との感想も寄せられていました。

「新聞 × 中高生」では、大学生が立ち上げたNPO団体Lensにファシリテーションをお願いしました。フリートークの時間には進路や学校生活について話を聞いている姿も見られるなど、中学生からは「高校生や大学生と話せることが楽しい」という感想も寄せられていました。多様な世代の個性豊かな人々とのふれ合いの中で何かをつかんだのか、不登校状態が続いていた子が「自分から学校に行こうという意思が出てきたことに、驚いた」というお母さんの声も報告されています。その他にも、「忘れそうになっていた大切なことを思い出せたような気がしています」といった声もありました。

〈Try：改善を図りたいこと〉

1 広報：情報を、必要とする子どもたちに届けることの難しさ

今回、私たちがもっとも苦心したことの1つは、いかにして情報を届けるかということです。教職員の働き方がいわれる中で学校に協力を求めることは難しく、配布できたとしてもたくさんの情報の中に埋もれてしまいがちです。ニッチな講座情報を不登校、またはその傾向にある子どもたちに届けることの難しさについては認識が不足していたと思います。

当初予定していた広報のためのイベントは、「そもそも誰を対象とするのか」ということから、見直しを迫られました。コロナ禍で家にこもりがちになることは、どの子にも心配されたことですが、講座への参加に

ついては、
「不登校状態にある子だけを受け入れるのか？ だとしたら、不登校をどう定義するのか？」
「そもそも線を引く必要があるのか？ 不登校状態にある子が、学校に通っている友だちと二人で参加したいといってきたらどうするか？」
「学校に行っている子も来るとなると、出にくくなる子もいるのではないか？」
「家から出ることが難しくなっている子には、少人数で、安心して過ごせる場であることが大切だ」と、いった議論もありました。

一方で「不登校のためのなどと言われると、かえって出にくい」という意見もあり、チラシを作るにも「不登校」という語をどのように載せるかなど議論となったところでした。結果として「むすび場事業」では「不登校」を押し出すことは控えめにし、広報は不登校と言われる状態にある子どもたちを優先的に行うように努めました。具体的には、情報をチラシという形で学校の先生方やスクールカウンセラーさんに託して、子どもたちの手もとに届けるなどしましたが、先生方やスクールカウンセラーさんでも「本人の顔を見たことがない」という子がいるなど、学校からの距離が空いてしまっている子には十分に情報を届けられていなかったと思います。

2 理解を得ることの難しさ

今回の事業では、「学校に行けない子が、見ず知らずの人の中に入っていけるわけがない」という声がありました。たしかにそれも一面の真理かもしれませんが、私たちが目指したのは学校とは別に「もう1つの選択肢」を設けることです。「気力をなくしている子には無理」という指摘もありました。しかし、すぐにその気にはならなかったとしても、心が動いたときに「行ってみようかなと思える場」と「やってみたいなと思える学びの機会」を用意することで届けられるメッセージもあるのではないでしょうか？

「なぜ、地域文化スポーツクラブなのか？」「なぜ、不登校とつながるのか？」ということでは、教育委員会や学校からの理解を得ることはまだ十分にできていないように思えます。「事業の背景」でもふれたように、不登校の要因を「無気力」や「不安」とする常識という固定観念は、問題の本質を見えにくくしているように思えます。「部活動改革なら進めている」とも言われますが、それは教職員の働き方改革に端を発するものであって、子どもたちにはどこまで目が向けられているでしょうか。

不登校という状態にあってセルフエスティームを損ねている子、本来の姿を見失っている子もいることは確かですが、その子らも多くはもともと「無気力」であったわけではありません。今、なぜこれほどまでに多くの子どもたちが、ありのままの自分を肯定的にとらえられなくなっているのかと考えれば、私たちがなすべきことは自ずと明らかになるはずです。しかし「学校に戻すことを目的とはしない」と言われるようになった今日でも、多くの場面で語られているのは「不登校をどうするか」ということに留まっているように感じます。

今後に向けて：私たちが実現したいこと

学校に行かなかったとしても、その子がその子らしく育つことができたなら、それは問題とはならないはずです。問題は、学び、育つための環境が整えられていないということです。不登校などの形で子どもたちから突き付けられた‘NO’に、私たちはどう応えたらよいでしょう。子どもたちの学びと育ちの環境を改善するためには、どこから改めたらよいでしょう。

不登校という状態にある子どもたちに、居場所さえ十分に保障されていない現状は深刻です。「まずは居場所」と考えるのは当然ですが、広い意味での「学びの環境の改善」が後回しにされて良いとは思えません。彼ら、彼女らの中に、いわゆる「勉強」に対して拒否反応を示す子が少なくないことは確かです。しかしその一方で、学習が遅れることで不安を募らせている小中学生が多いことも、事実です。「学校が嫌いな子どもたちは勉強も嫌い」といった大人の勝手な思い込みはいまだに根強いように思えますが、今回の事業の中でも感じられたのは、本来の子どもたちの中に「勉強嫌い」はいても「学ぶことが嫌いだ」という子はいないということです。

体が疲れたときと同じように、心が疲れたときにも休養が必要です。しかしただ休んでいるだけでなく、栄養を取り、回復の様子を見て心身を動かすことも大切です。本来の状態にない子どもたちに対するとき、私たちの目はその子の弱みにばかり行きがちですが、そんなときこそ、その子の興味や関心にそったより良い「学びの環境」が保障されて然るべきではないでしょうか。背中の押し具合に気をつけながら、その子がその気になったときに「学べる環境」を整えておくことが大切なのではないでしょうか。

ここでの「学び」は、「もっとも広い意味での学び」として用いています。しかし、リヴォルヴ学校教育研究所を設立した当時の適応指導教室では、学習支援といっても教科学習の補助程度に留まり、その子の特性に応じた支援を求めても「勉強したいなら、学校に行けばいい」と言われていました。しかし今、衆目を集めている「部活動改革」は教職員の働き方改革としてばかりでなく、子育ち環境を見直すための良い機会になるのではないかと私たちは考えます。

スタッフの振り返りの中では、事業の成果として「より多くの人に、不登校状態にある子と接する機会をもってもらえたこと」もあげられていました。「どんな子が来るのか」と心配する声もありましたが、「一緒にやってもらったら、子どもは子どもなんだよね」と言っていただくなどしたという報告もありました。いわゆる不登校状態にあるに子どもたちを、「不登校児童生徒」とかぎ括弧でくくること自体に問題があると私たちは考えます。

しかし講師をお願いした方の中には、「経験させてあげたい」といった思いが強く出過ぎた方もいらっしゃいました。不登校といっても、家から出ることが難しく家族以外との接触が少なくなっている子、学校に行ってはいても授業や部活動には参加していない子、さらに言えば、学校には行っているし授業にも出ているけれど、心の中は不登校といってよいような状態にある子など、様々です。リヴォルヴ学校教育研究所では「みんなちがって　みんないい」をモットーとして活動をしてきました。私たちは今後も、この言葉の意味を繰り返し語り合いながら、不登校といわれる状態にある子はもちろん、幼児からシルバー世代まで多様な個性がふれ合う機会を創出することで、生涯を通じたより豊かな学びの実現を目指したいと思います。

４.巻末資料

- むすび場チラシ
- 耕作放棄地をお花畑にして地球を黄色く染めようプロジェクトチラシ
- つくばエキスポセンター連携企画・科学体験チラシ

むすび場チラシ

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

地域文化スポーツクラブ事業「むすび場」

科学や芸術、スポーツ、農業など、様々な学びと体験の講座を開催

https://www.musubibaclub.com/

講座・体験の最新情報はこちら↓

たいけん

農業体験
（野菜・お米・いろいろ）

プラっと参加できる
軽スポーツ「ぷらスポ」

気軽にギター体験

ジャグリング体験

つくる

染めもの

工作ひろばつくるん

ハンドメイド教室
～自分だけの作品づくり～

みつける

理科教室

他にも、イラスト講座や演劇体験などいろいろ！むすび場ホームページをご覧ください

主催：特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所　　お問い合わせ：musubiba.tsukuba@gmail.com

助成：日本財団　　後援：つくば市教育委員会・下妻市教育委員会

協力：みんなの社会力を育む会☆めぐりあい／不登校コミュニティしもつま／まちづくり市民グループしもつま３高

耕作放棄地をお花畑にして地球を黄色く染めようプロジェクトチラシ

地域文化スポーツクラブ事業「むすび場」×ぷにの家 コラボ企画

耕作放棄地をお花畑にして地球を黄色く染めよう！プロジェクト

とっても広い耕作放棄地にマリーゴールドを植えて、お花が咲いたころにお花畑をドローンで撮影して、地球（大地）が黄色く染まっていることを確認したいと思います！
染織工房なだけに、地球まで染めちゃおう！という壮大な計画です♪

第1回　マリーゴールドの苗を植えよう
　2022年6月19日(日) 10:00～12:30　軽昼食つき
　　6月22日(水) 13:30～15:00　お茶会つき

第2回　お花畑の草取り＆マーブリング染め体験
　2022年7月18日(月祝) 8:00～10:30

第3回　お花畑の草取り＆マーブリング染め体験
　2022年8月27日(土) 8:00～10:30

第4回　お花畑を空から見てみよう～ドローンで撮影＆お花つみ会～
　2022年9月19日(月祝)　予備日　9月23日(金祝)
　　10:00～12:00

第5回　お花つみ＆マリーゴールド染め
　2022年10月2日(日) 10:00～14:00　予備日 10月16日(日)
　　10:00～12:00　お花摘み＆マリーゴールド染め
　　12:00～14:00　昼食だんらん会（食後適宜解散）

各回、開催条件、参加費等があります。詳しくは右のQRコードで表示される募集案内をご覧ください。

詳細はこちら

「むすび場」
講座・体験の最新情報は
こちら→

主催：特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所　お問い合わせ：musubiba.tsukuba@gmail.com　助成：日本財団
「むすび場」は、地域で活動する個人や団体との協働のもとで運営されています。

つくばエキスポセンター連携企画・科学体験チラシ

むすび場・地域文化スポーツクラブ事業

ホームページ

https://www.musubibaclub.com/

お問い合せ

musubiba.tsukuba@gmail.com

むすび場 地域文化スポーツクラブ事業 活動報告書

発行日	2023 年 3 月
制作・発行	特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所 〒305-0051 茨城県つくば市ニの宮 1-18-1 ハイツあづま 102 TEL 029-856-8143　FAX 029-896-4035 http://rise.gr.jp/
印刷・製本	株式会社イセブ

本冊子は、日本財団による助成を受けて作成しました

特定非営利活動法人
リヴォルヴ学校教育研究所